

---

和光市  
地域福祉に関するアンケート調査  
（②市民（避難行動要支援者））  
報告書

---

令和7年2月

## 目次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| I. 調査の概要                      | 1  |
| 1. 調査目的                       | 1  |
| 2. 調査の実施について                  | 1  |
| 3. 有効回答件数及び回答率                | 1  |
| 4. 報告書の見方                     | 1  |
| II. 集計結果                      | 2  |
| 1. あなたご自身とご家族のことについて          | 2  |
| 2. 近所付き合い、地域の暮らしについて          | 6  |
| 3. 市民同士の支え合い、地域活動について         | 11 |
| 4. 暮らしのことについて                 | 19 |
| 5. 福祉サービスについて                 | 22 |
| 6. 災害対策について                   | 25 |
| 7. 権利擁護支援について                 | 36 |
| 8. 更生を支援するまちづくりについて（再犯防止について） | 41 |
| 9. 困難な問題を抱える女性支援制度について        | 48 |
| 10. 自由意見                      | 50 |

## I. 調査の概要

### 1. 調査目的

「第五次和光市地域福祉計画・和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画」（令和8年度～令和12年度）を策定する基礎資料とすることを目的に、地域福祉に関する意識や考え方について調査を実施した。

### 2. 調査の実施について

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 対象者  | 本市在住の16歳以上の避難行動要支援者該当者の方300人 |
| 実施期間 | 令和6年11月28日（木）～令和6年12月23日（月）  |
| 実施方法 | 紙調査票及びWeb調査フォーム              |

### 3. 有効回答件数及び回答率

| 配布数  | 回答数  | 回答率   | 有効回答数 | 有効回答率 |
|------|------|-------|-------|-------|
| 300件 | 131件 | 43.7% | 131件  | 43.7% |

### 4. 報告書の見方

- （1）回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0％を前後することがある。
- （2）複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0％を超える。なお、複数回答を求める質問についての図表上の表記は、以下のとおりである。

「MA％」（Multiple Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

「2LA％」（2 Limited Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合

「3LA％」（3 Limited Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合

- （3）本文中のグラフや数表で、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

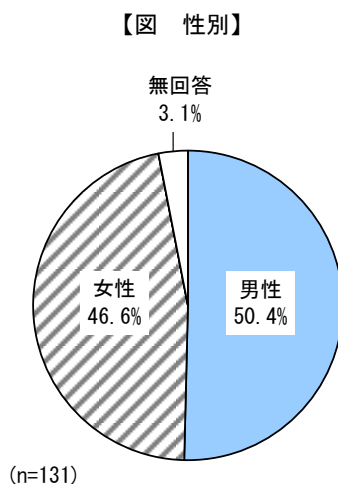
## Ⅱ. 集計結果

### 1. あなたご自身とご家族のことについて

#### (1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

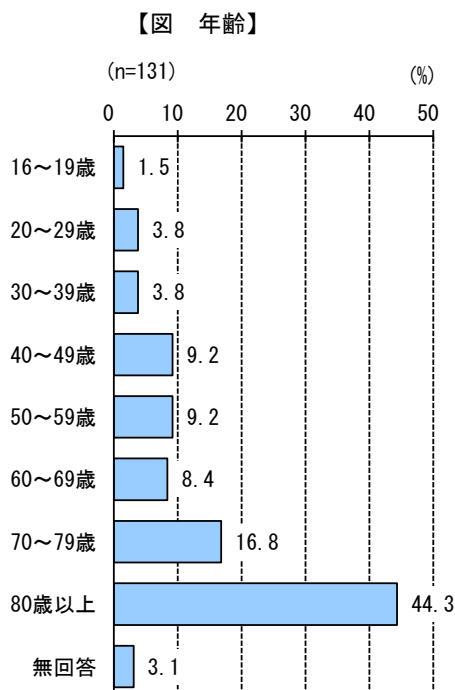
性別は、「男性」が50.4%、「女性」が46.6%となっている。



#### (2) 年齢

問2 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)

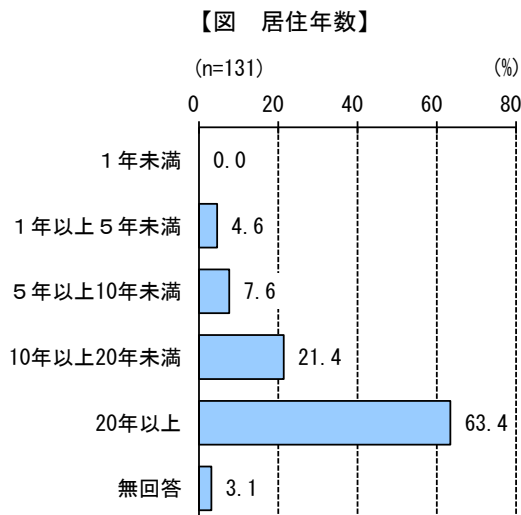
年齢は、「80歳以上」が44.3%と最も多く、次いで、「70～79歳」が16.8%、「40～49歳」、「50～59歳」がそれぞれ9.2%、「60～69歳」が8.4%、「20～29歳」、「30～39歳」がそれぞれ3.8%となっている。



### (3) 居住年数

問3 あなたの居住年数は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

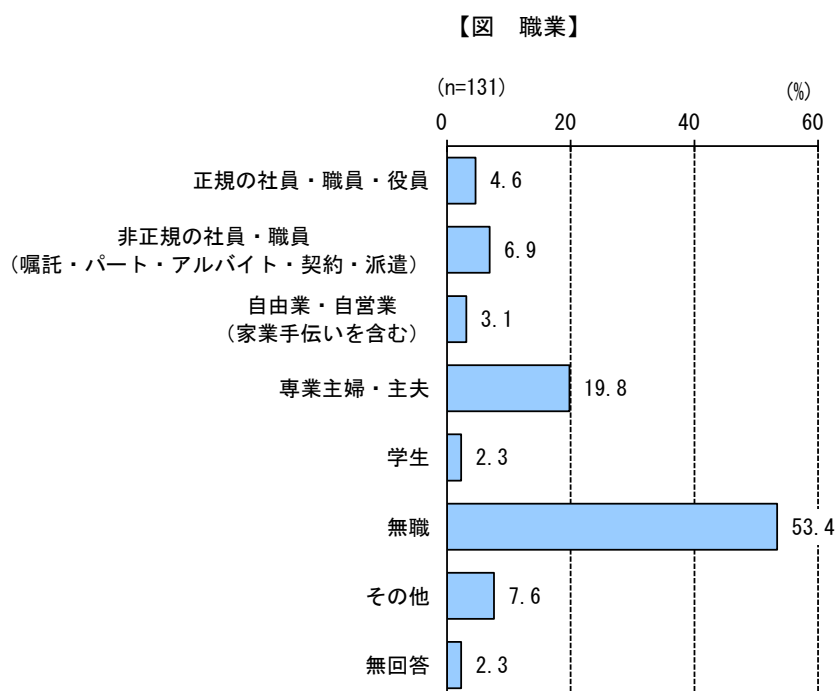
居住年数は、「20年以上」が63.4%と最も多く、次いで、「10年以上20年未満」が21.4%、「5年以上10年未満」が7.6%、「1年以上5年未満」が4.6%となっている。



### (4) 職業

問4 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

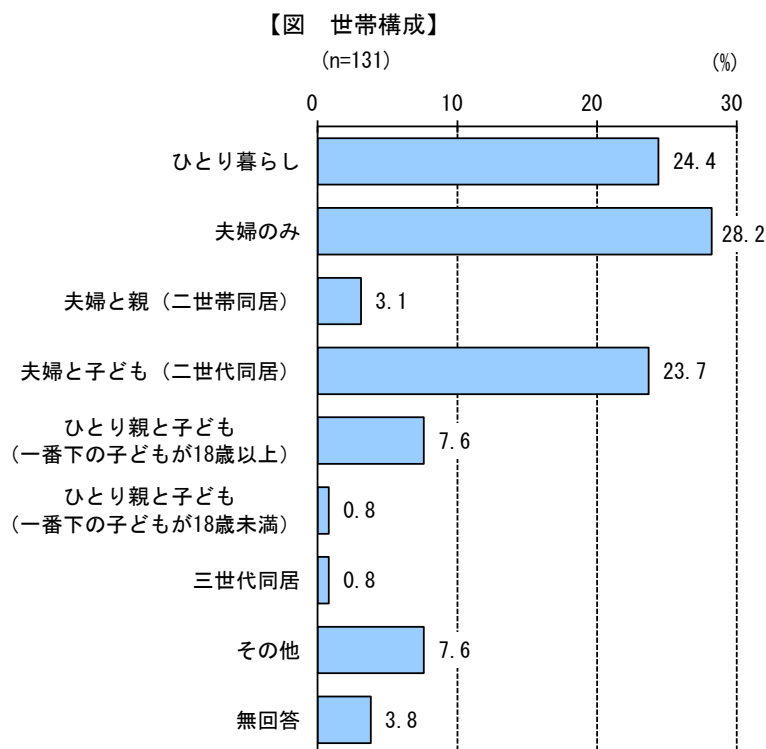
職業は、「無職」が53.4%と最も多く、次いで、「専業主婦・主夫」が19.8%、「非正規の社員・職員（嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣）」が6.9%、「正規の社員・職員・役員」が4.6%、「自由業・自営業（家業手伝いを含む）」が3.1%となっている。



## (5) 世帯構成

問5 現在、あなたが同居している世帯の構成は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

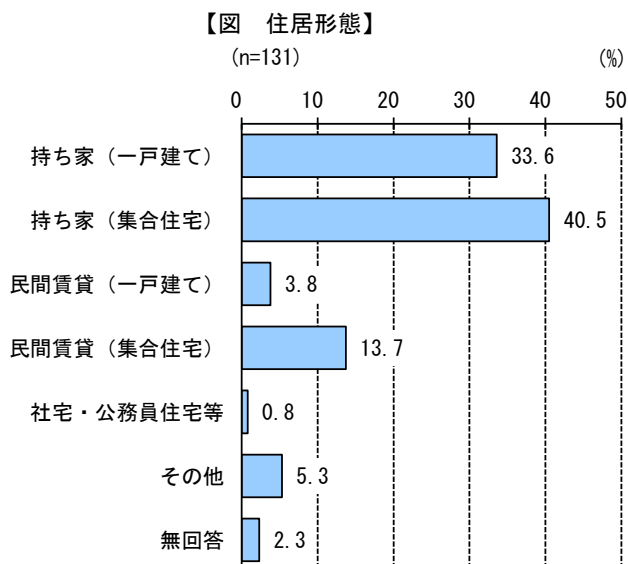
世帯構成は、「夫婦のみ」が 28.2%と最も多く、次いで、「ひとり暮らし」が 24.4%、「夫婦と子ども（二世帯同居）」が 23.7%、「ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳以上）」が 7.6%、「夫婦と親（二世帯同居）」が 3.1%となっている。



## (6) 住居形態

問6 あなたのお住まいの住居形態は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

住居形態は、「持ち家（集合住宅）」が 40.5%と最も多く、次いで、「持ち家（一戸建て）」が 33.6%、「民間賃貸（集合住宅）」が 13.7%、「民間賃貸（一戸建て）」が 3.8%、「社宅・公務員住宅等」が 0.8%となっている。

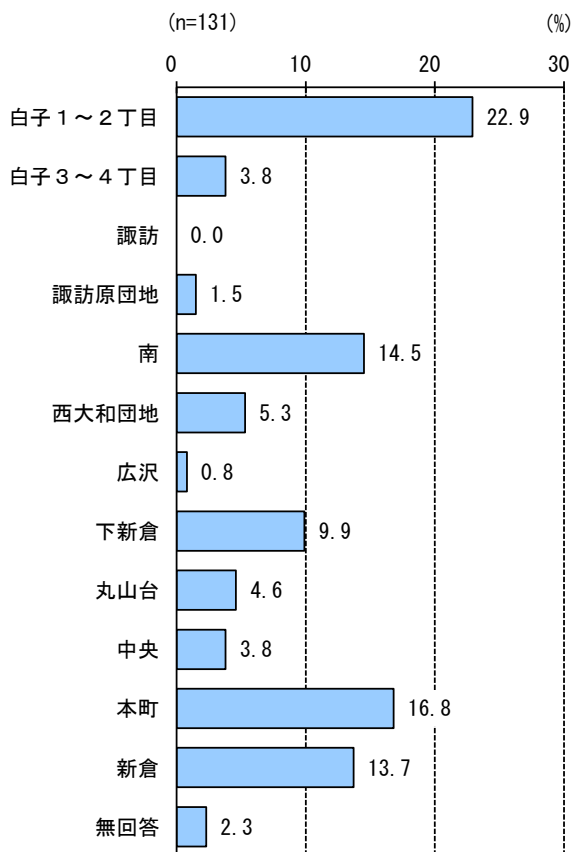


## (7) 居住地

問7 あなたのお住まいはどちらですか。(1つに○)

居住地は、「白子1～2丁目」が22.9%と最も多く、次いで、「本町」が16.8%、「南」が14.5%、「新倉」が13.7%、「下新倉」が9.9%となっている。

【図 居住地】



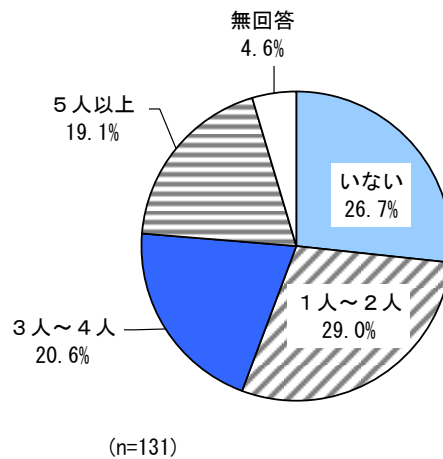
## 2. 近所付き合い、地域の暮らしについて

### (1) 日常的に会話する近所の人の数

問8 家族以外の近所の人で、日常的に会話をする人は何人いますか。(1つに○)

日常的に会話する近所の人数は、「1人～2人」が29.0%と最も多く、次いで、「いない」が26.7%、「3人～4人」が20.6%、「5人以上」が19.1%となっている。

【図 日常的に会話する近所の人数】

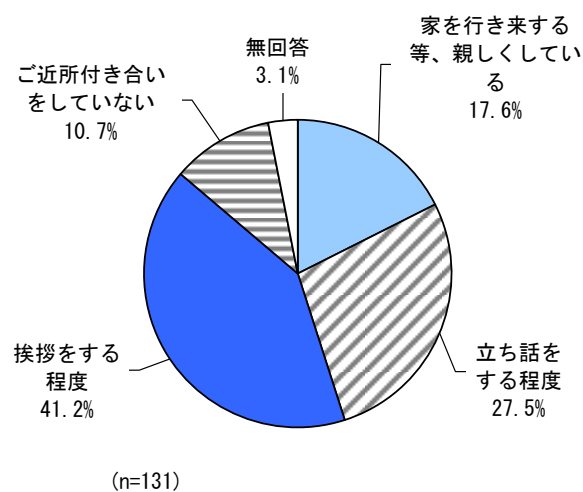


### (2) 近所付き合いの程度

問9 ご近所の付き合いは、どの程度していますか。(1つに○)

近所付き合いの程度は、「挨拶をする程度」が41.2%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」が27.5%、「家を行き来する等、親しくしている」が17.6%、「ご近所付き合いをしていない」が10.7%となっている。

【図 近所付き合いの程度】

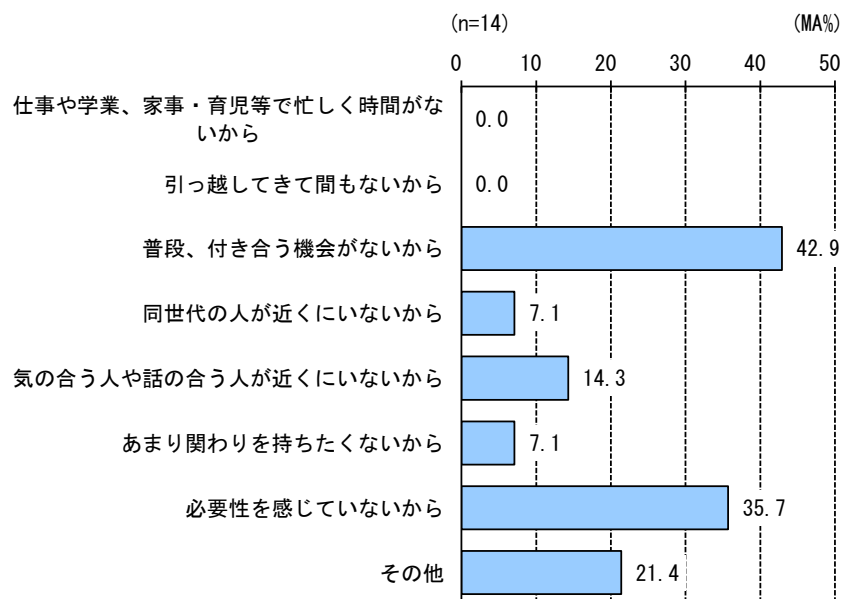


### (3) 近所付き合いをしていない理由

問9-1 近所付き合いをしていない理由は何ですか。(いくつでも○)

近所付き合いをしていない理由は、「普段、付き合う機会がないから」が42.9%と最も多く、次いで、「必要性を感じていないから」が35.7%、「気の合う人や話の合う人が近くにいないから」が14.3%、「同世代の人が近くにいないから」、「あまり関わりを持ちたくないから」がそれぞれ7.1%となっている。

【図 近所付き合いをしていない理由】

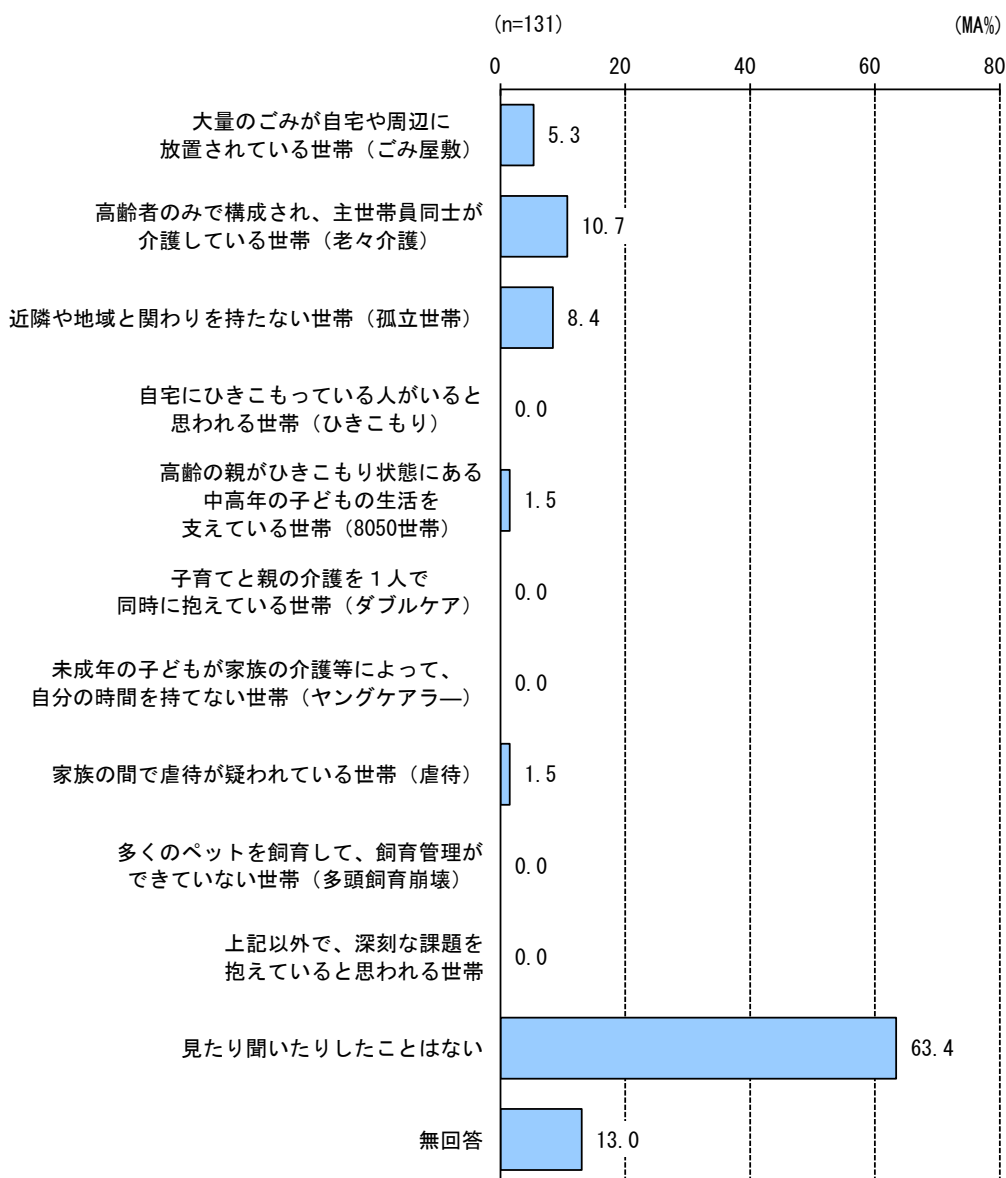


#### (4) 地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるか

問10 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。(いくつでも○)

地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるかは、「見たり聞いたりしたことはない」が 63.4%となっている。見聞きした内容では、「高齢者のみで構成され、主世帯員同士が介護している世帯（老々介護）」が 10.7%と最も多く、次いで、「近隣や地域と関わりを持たない世帯（孤立世帯）」が 8.4%、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」が 5.3%、「高齢の親がひきこもり状態にある中高年の子どもの生活を支えている世帯（8050 世帯）」、「家族の間で虐待が疑われている世帯（虐待）」がそれぞれ 1.5%となっている。

【図 地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるか】

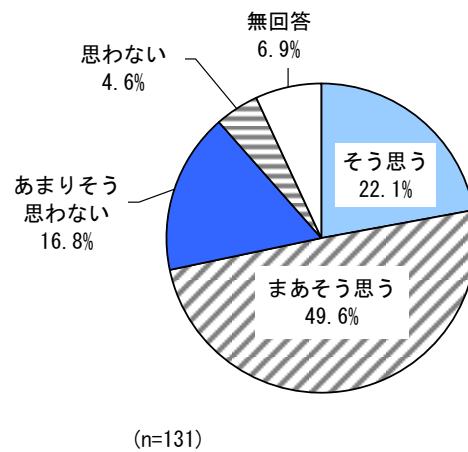


(5) 和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思うか

問11 和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思いますか。(1つに○)

和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思うかは、「まあそう思う」が 49.6%と最も多く、次いで、「そう思う」が 22.1%、「あまりそう思わない」が 16.8%、「思わない」が 4.6%となっている。

【図 和光市は子どもたちがすごしやすい居場所が確保されているまちだと思うか】

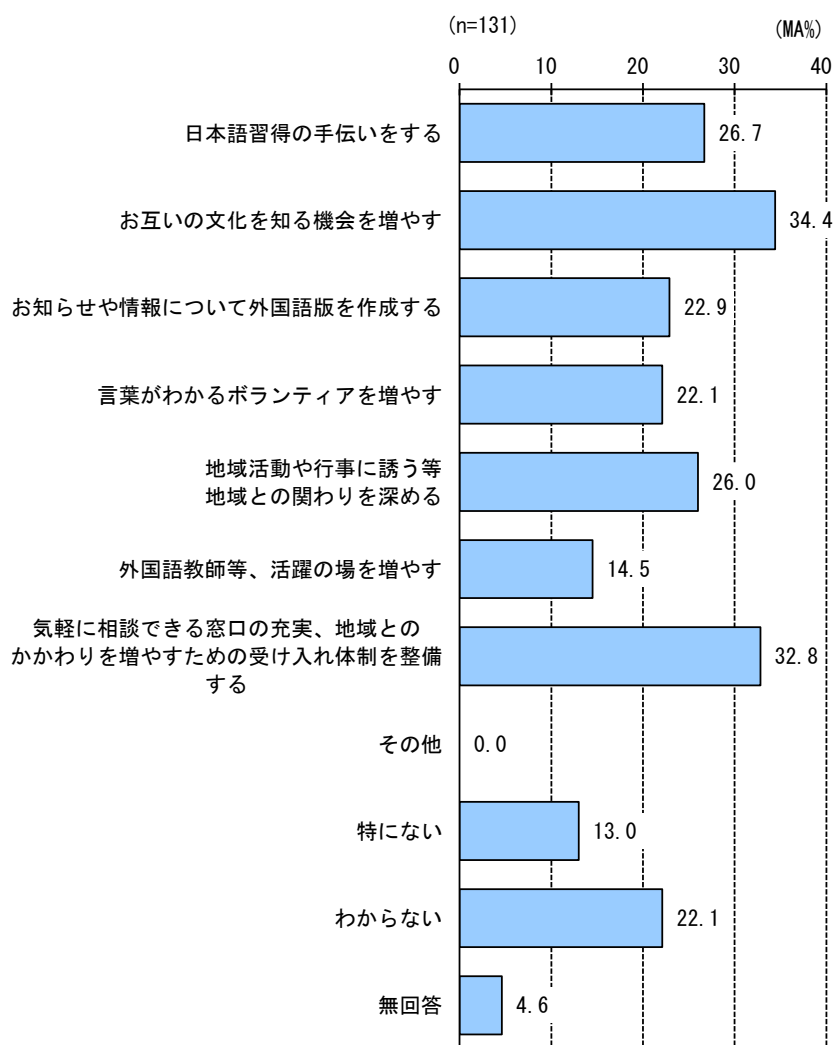


## (6) 在住外国人にとって暮らしやすい地域にするために大切なこと

問12 在住外国人にとって暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが大切だと思いますか。  
(いくつでも○)

在住外国人にとって暮らしやすい地域にするために大切なことは、「お互いの文化を知る機会を増やす」が 34.4%と最も多く、次いで、「気軽に相談できる窓口の充実、地域とのかかわりを増やすための受け入れ体制を整備する」が 32.8%、「日本語習得の手伝いをする」が 26.7%、「地域活動や行事に誘う等地域との関わりを深める」が 26.0%、「お知らせや情報について外国語版を作成する」が 22.9%となっている。

【図 在住外国人にとって暮らしやすい地域にするために大切なこと】



### 3. 市民同士の支え合い、地域活動について

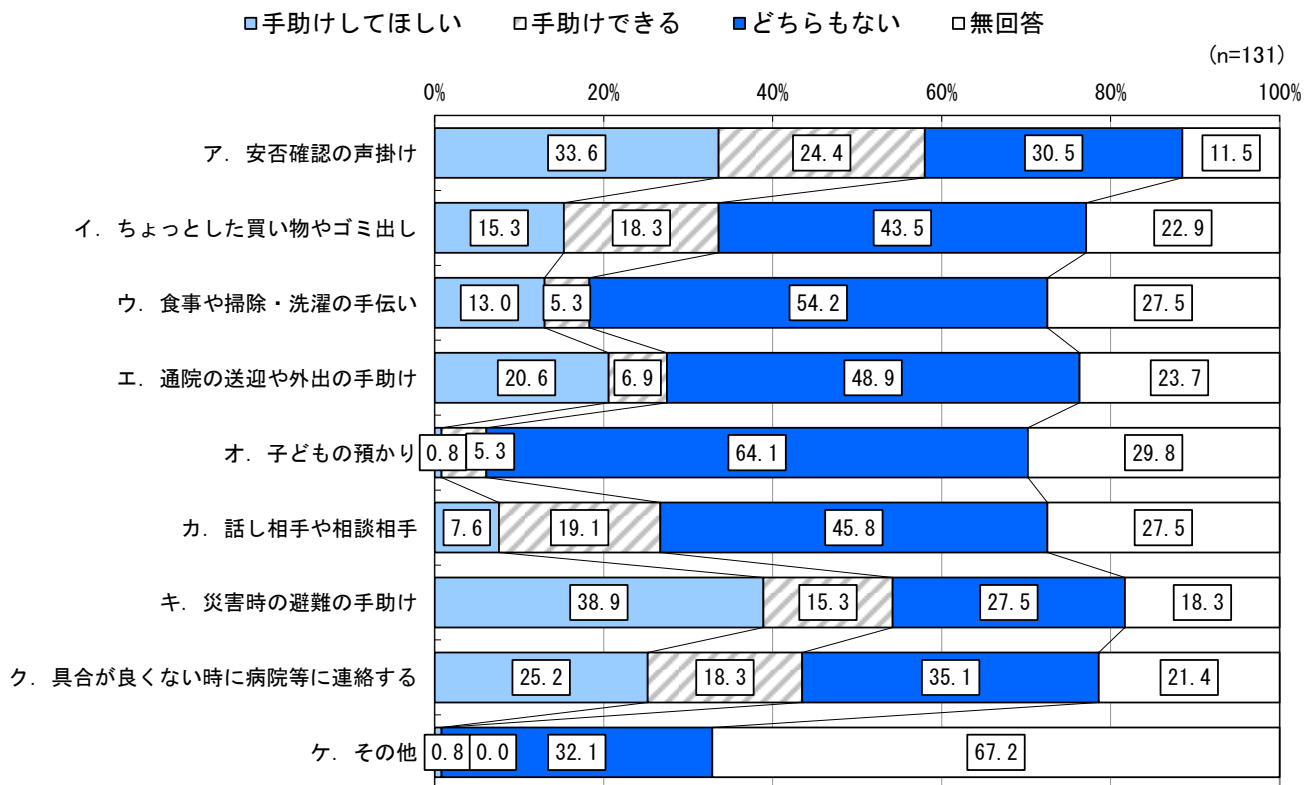
#### (1) 周りの人から手助けをしてほしいと思うか、周りの人に手助けできるか

問13 あなたは次の事柄について、家族以外の周りの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、周りの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○をつけてください。

周りの人から手助けをしてほしいと思うかは、「キ. 災害時の避難の手助け」が 38.9%と最も多く、次いで、「ア. 安否確認の声掛け」が 33.6%、「ク. 具合が良くない時に病院等に連絡する」が 25.2%となっている。

周りの人に手助けできるかは、「ア. 安否確認の声掛け」が 24.4%と最も多く、次いで、「カ. 話し相手や相談相手」が 19.1%、「イ. ちょっとした買い物やゴミ出し」、「ク. 具合が良くない時に病院等に連絡する」がそれぞれ 18.3%となっている。

【図 周りの人から手助けをしてほしいと思うか、周りの人に手助けできるか】

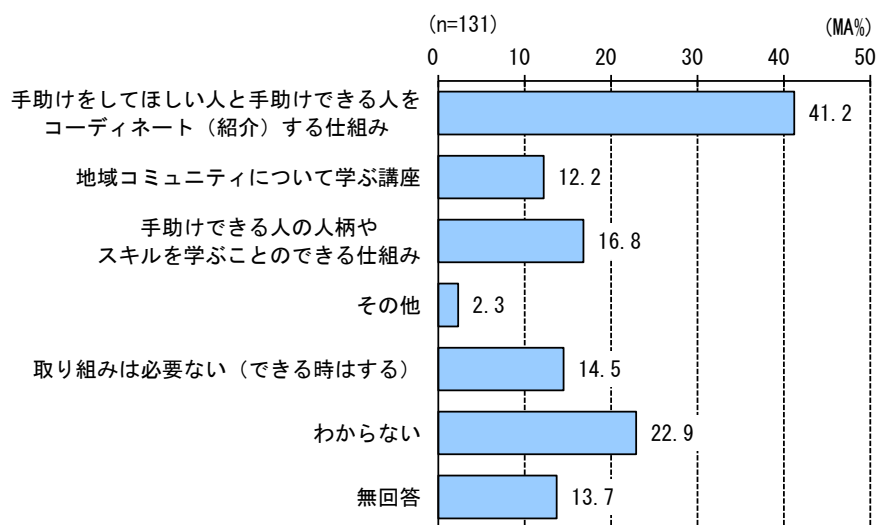


## (2) 手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思うか

問14 家族以外の周りの人に問13のア～ケのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思いますか。（いくつでも○）

手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思うかは、「手助けをしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み」が 41.2%と最も多く、次いで、「手助けできる人の人柄やスキルを学ぶことのできる仕組み」が 16.8%、「地域コミュニティについて学ぶ講座」が 12.2%となっている。

【図 手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取り組みがあると良いと思うか】

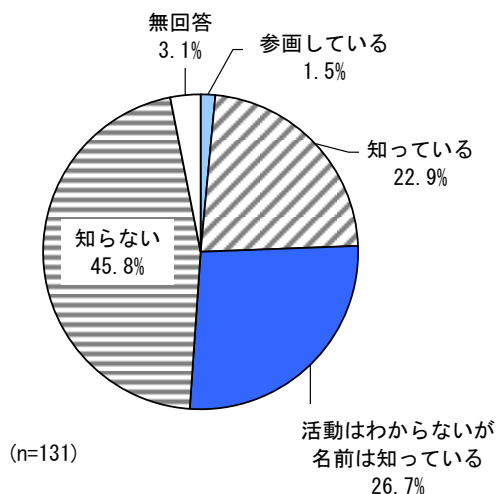


## (3) 地区社協の認知状況

問15 あなたは地区社協を知っていますか。（1つに○）

地区社協の認知状況は、「知らない」が 45.8%と最も多く、次いで、「活動はわからないが名前は知っている」が 26.7%、「知っている」が 22.9%、「参加している」が 1.5%となっている。

【図 地区社協の認知状況】



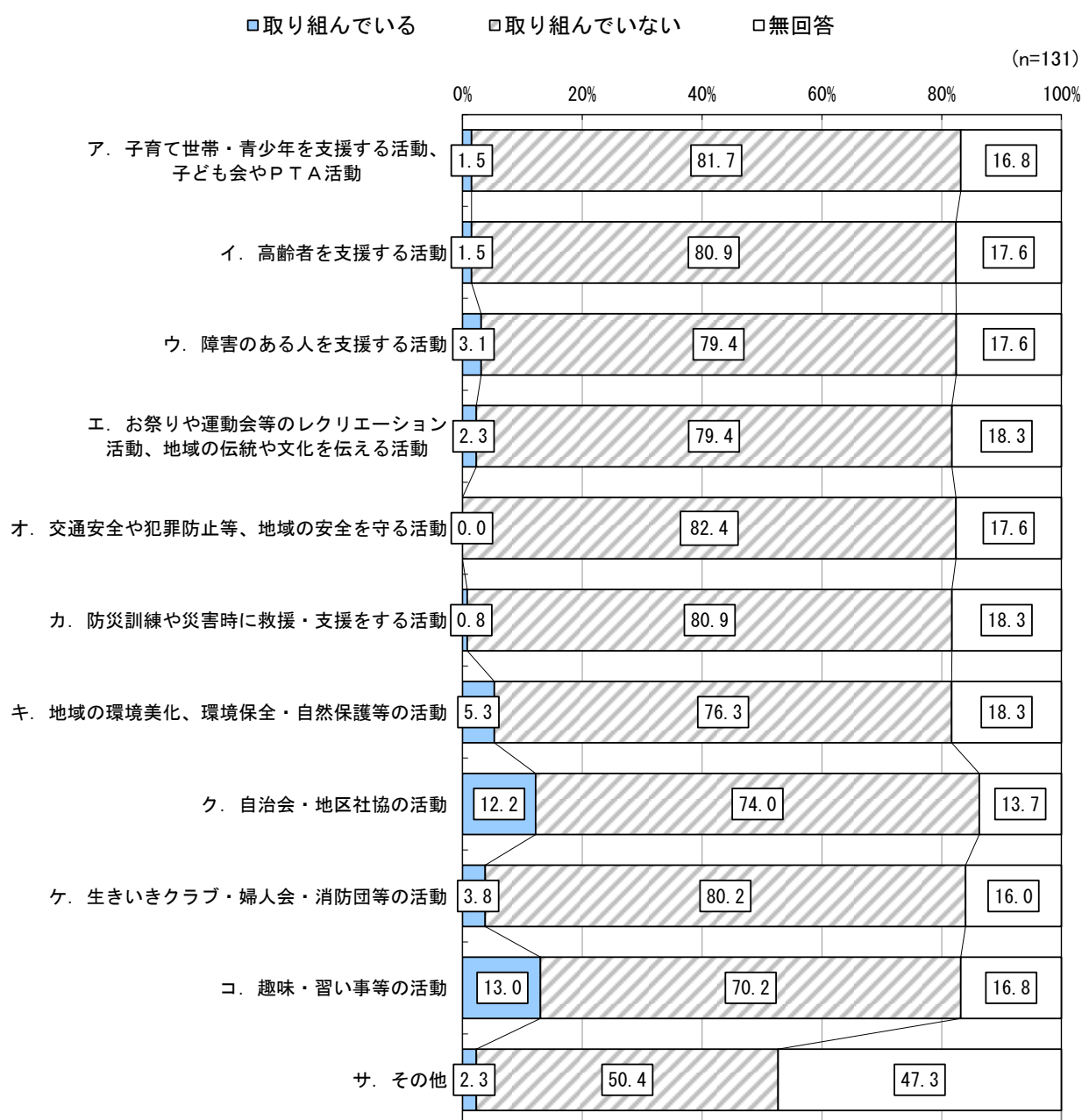
#### (4) 地域活動やボランティア活動の取り組み状況、今後取り組みたい活動

問16 市内では様々な地域活動やボランティア活動が行われていますが、①あなたは次のような活動に取り組んでいますか。②今後、次のような活動に取り組みたいです。か。(それぞれ1つに○)

地域活動やボランティア活動の取り組み状況は、「コ. 趣味・習い事等の活動」が13.0%と最も多く、次いで、「ク. 自治会・地区社協の活動」が12.2%、「キ. 地域の環境美化、環境保全・自然保護等の活動」が5.3%となっている。

今後取り組みたい活動は、「コ. 趣味・習い事等の活動」が19.8%と最も多く、次いで、「キ. 地域の環境美化、環境保全・自然保護等の活動」が15.3%、「ク. 自治会・地区社協の活動」が14.5%となっている。

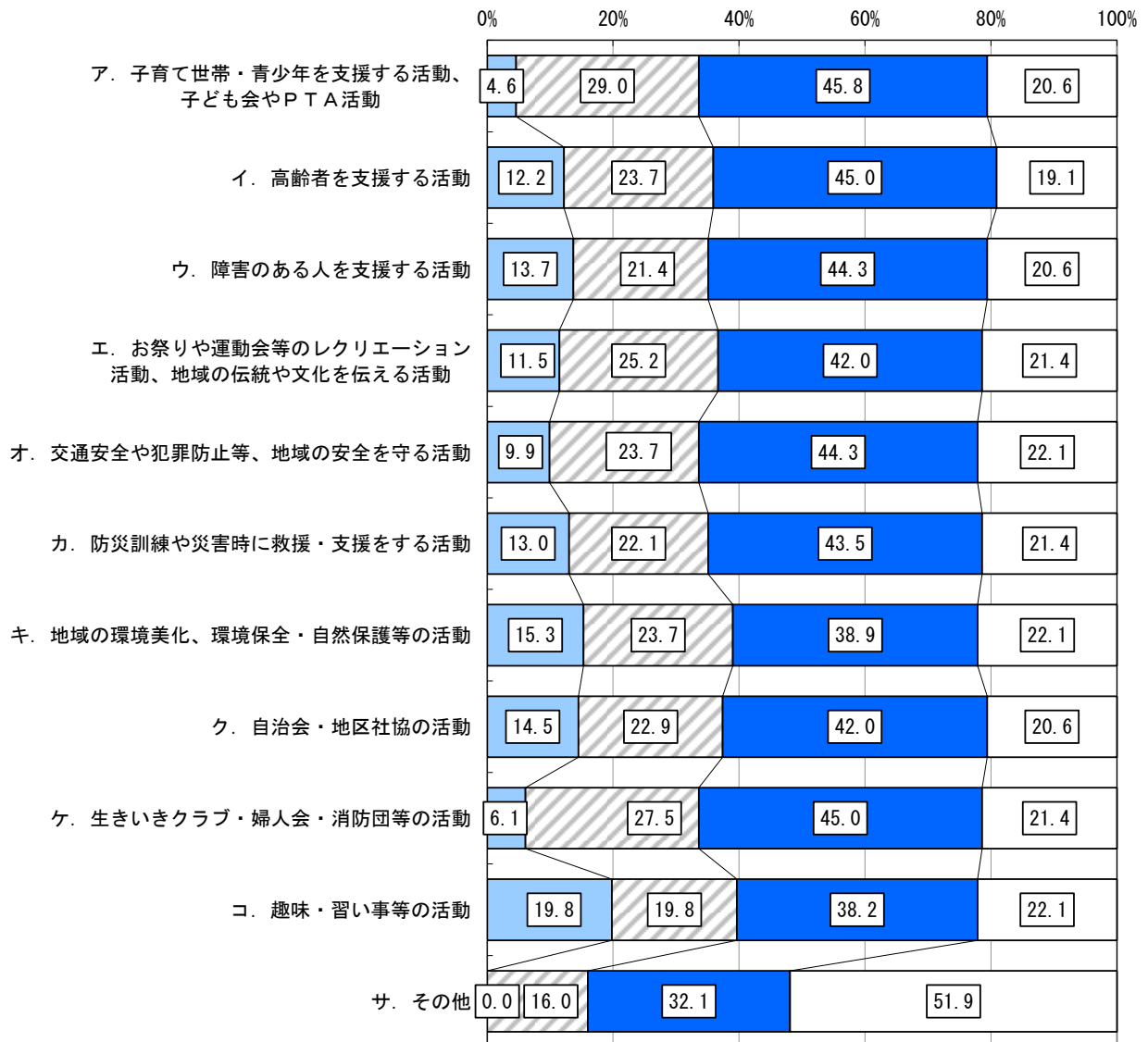
【図 地域活動やボランティア活動の取り組み状況】



【図 今後取り組みたい地域活動やボランティア活動】

■取り組みたい・興味がある    □取り組みまない・興味がない    ■わからない    □無回答

(n=131)

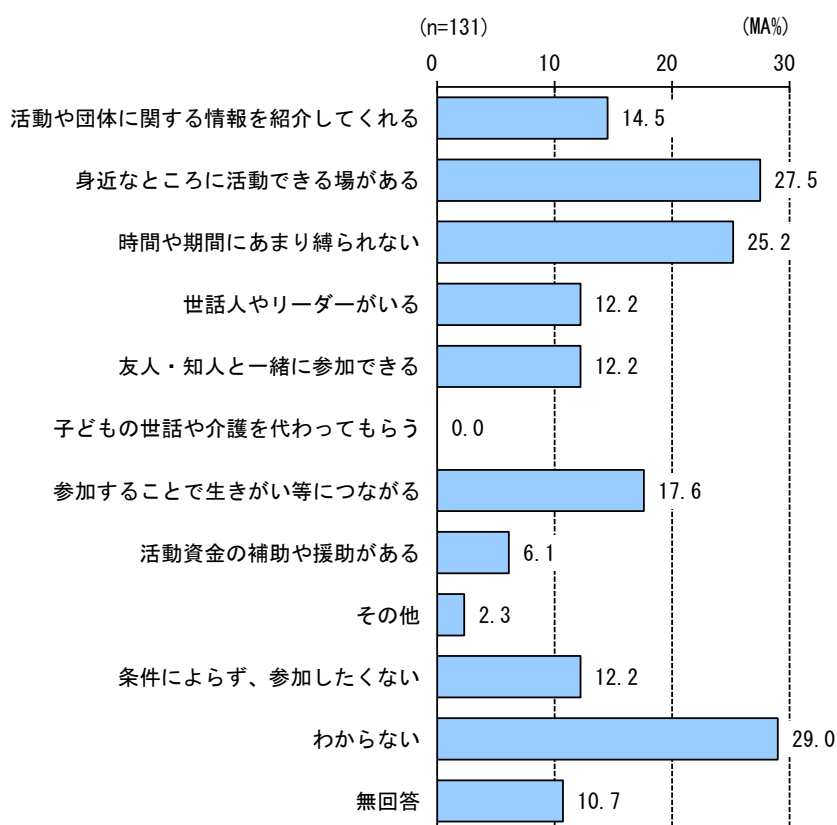


## (5) 地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすい条件

問17 どのような条件であれば、地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすいですか。  
(いくつでも○)

地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすい条件は、「身近なところに活動できる場がある」が27.5%と最も多く、次いで、「時間や期間にあまり縛られない」が25.2%、「参加することで生きがい等につながる」が17.6%、「活動や団体に関する情報を紹介してくれる」が14.5%、「世話人やリーダーがいる」、「友人・知人と一緒に参加できる」がそれぞれ12.2%となっている。

【図 地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすい条件】



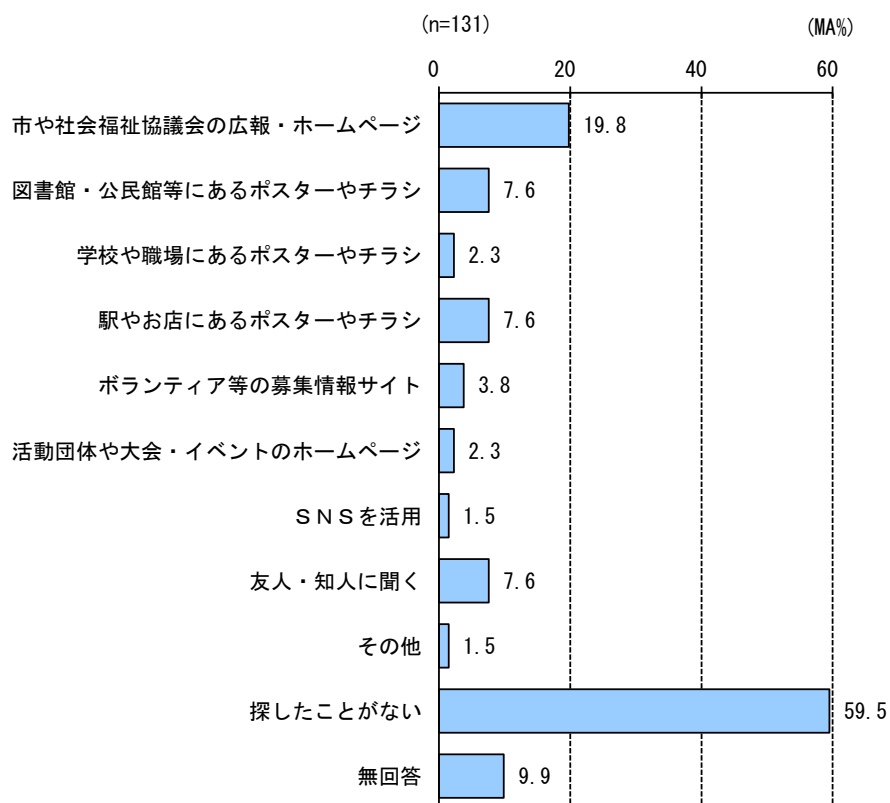
## (6) 地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探しているか

問18 地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探していますか。(いくつでも○)

地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探しているかは、「市や社会福祉協議会の広報・ホームページ」が 19.8%と最も多く、次いで、「図書館・公民館等にあるポスターやチラシ」、「駅やお店にあるポスターやチラシ」、「友人・知人に聞く」がそれぞれ 7.6%、「ボランティア等の募集情報サイト」が 3.8%、「学校や職場にあるポスターやチラシ」、「活動団体や大会・イベントのホームページ」がそれぞれ 2.3%、「SNSを活用」が 1.5%となっている。

一方、「探したことがない」が 59.5%となっている。

【図 地域活動やボランティア活動の情報をどのような方法で探しているか】



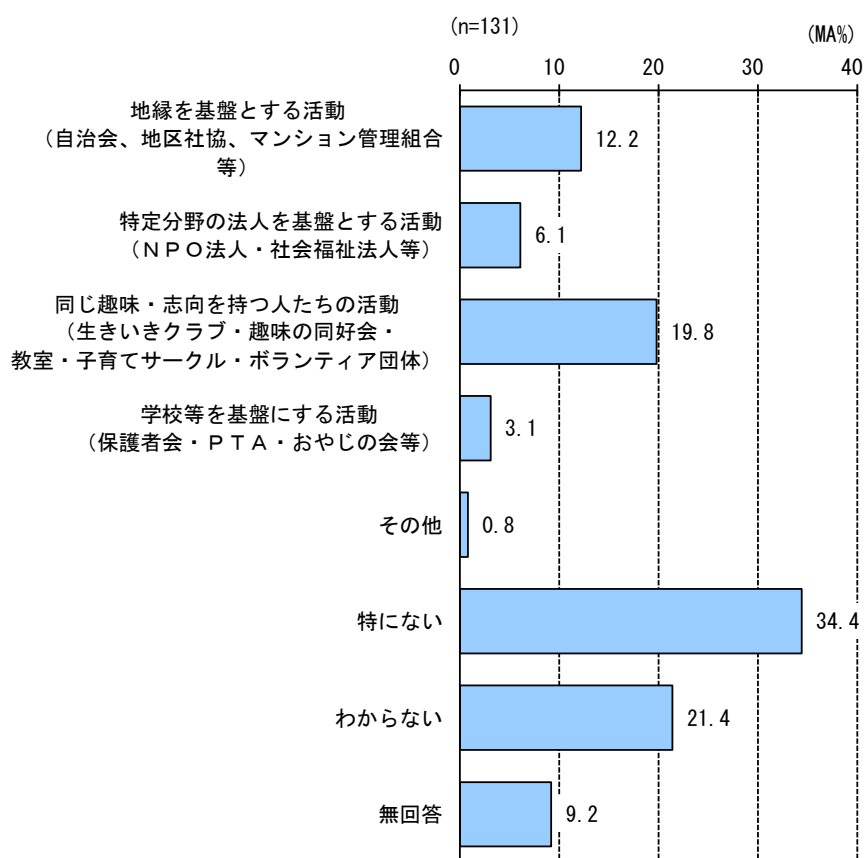
## (7) 参加しやすいと思う活動

問19 近年、様々な主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすいと思う活動は何ですか。(いくつでも○)

参加しやすいと思う活動は、「同じ趣味・志向を持つ人たちの活動（生きいきクラブ・趣味の同好会・教室・子育てサークル・ボランティア団体）」が 19.8%と最も多く、次いで、「地縁を基盤とする活動（自治会、地区社協、マンション管理組合等）」が 12.2%、「特定分野の法人を基盤とする活動（NPO法人・社会福祉法人等）」が 6.1%、「学校等を基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会等）」が 3.1%となっている。

一方、「特にない」が 34.4%となっている。

【図 参加しやすいと思う活動】

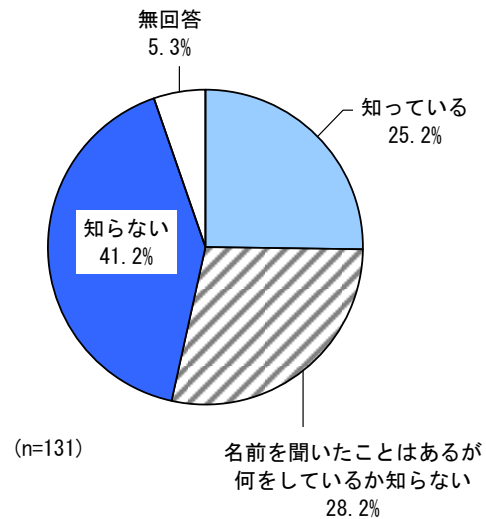


## (8) 和光市社会福祉協議会の認知度

問20 あなたは和光市社会福祉協議会（ボランティアセンター、地域福祉コーディネーターなど）を知っていますか。（1つに○）

和光市社会福祉協議会の認知度は、「知っている」が25.2%、「名前を聞いたことはあるが何をしているか知らない」が28.2%、「知らない」が41.2%となっている。

【図 和光市社会福祉協議会の認知度】



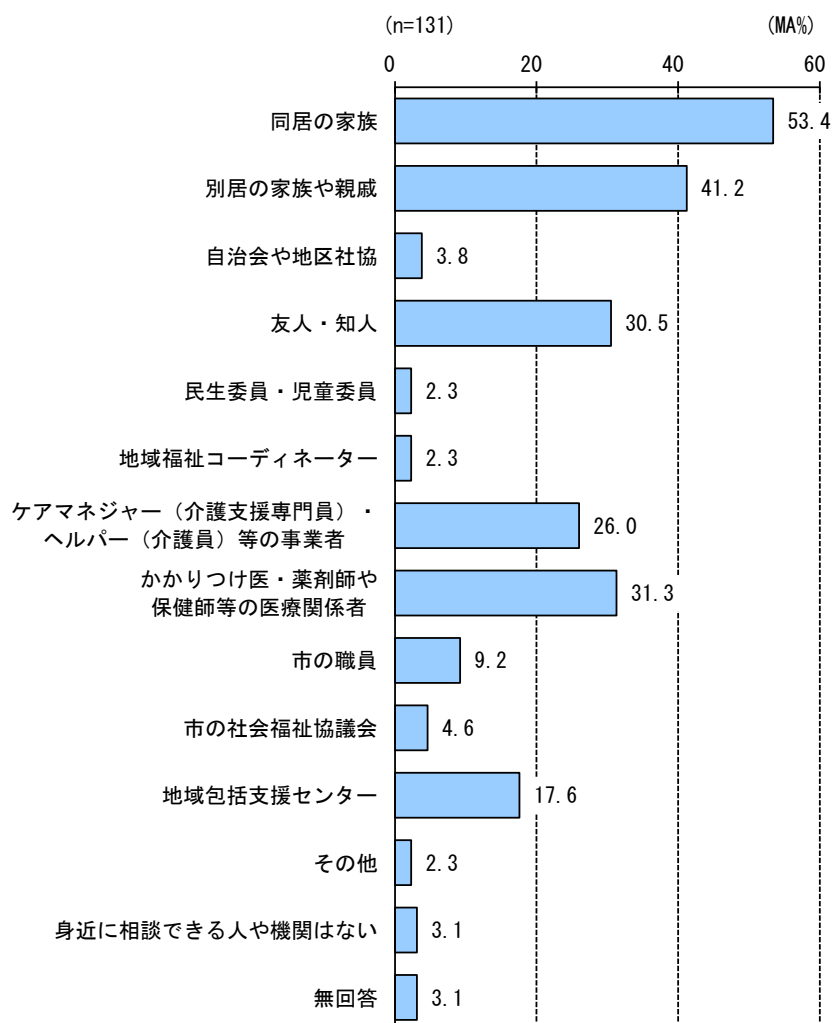
## 4. 暮らしのことについて

### (1) 日常生活での困りごとを相談できる人や機関

問21 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

日常生活での困りごとを相談できる人や機関は、「同居の家族」が 53.4%と最も多く、次いで、「別居の家族や親戚」が 41.2%、「かかりつけ医・薬剤師や保健師等の医療関係者」が 31.3%、「友人・知人」が 30.5%、「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）等の事業者」が 26.0%となっている。

【図 日常生活での困りごとを相談できる人や機関】

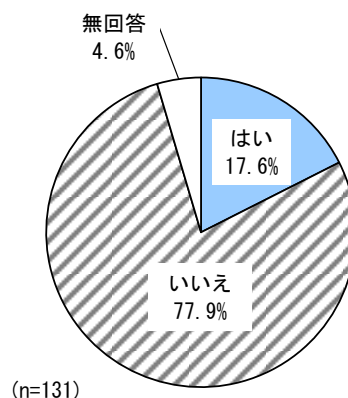


## (2) どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているか

問22 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかは、「はい」が17.6%、「いいえ」が77.9%となっている。

【図 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているか】

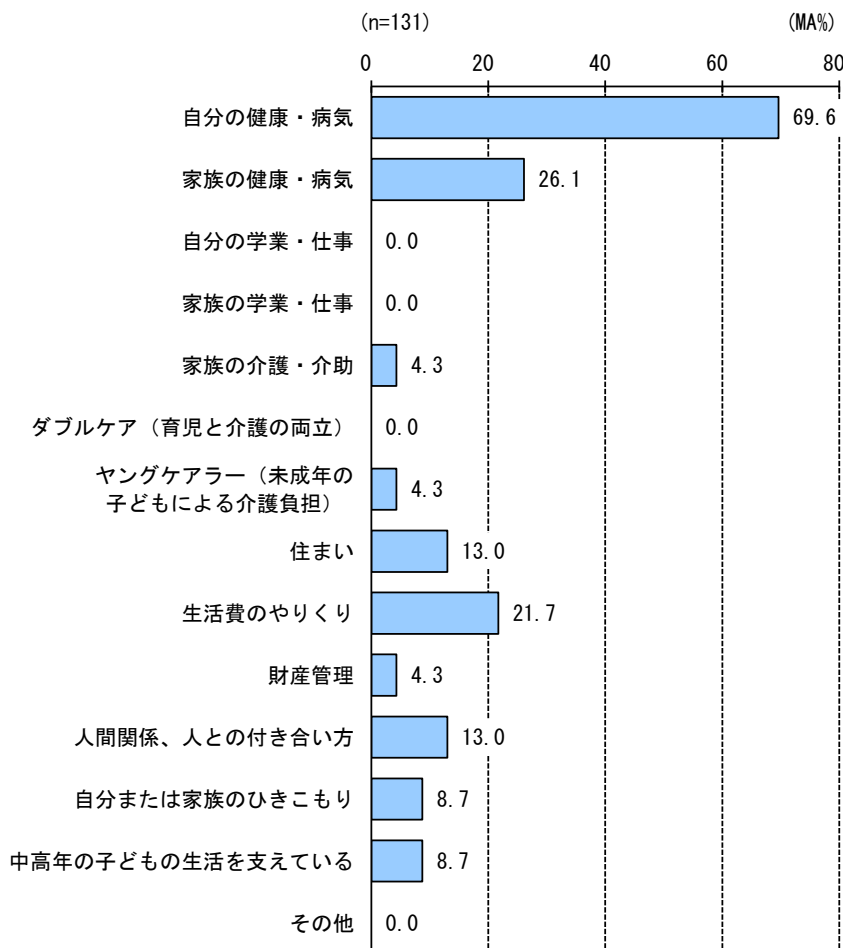


## (3) 困りごとの内容

問22-1 差し支えなければ、お困りごとの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

困りごとの内容は、「自分の健康・病気」が69.6%と最も多く、次いで、「家族の健康・病気」が26.1%、「生活費のやりくり」が21.7%、「住まい」、「人間関係、人との付き合い方」がそれぞれ13.0%、「自分または家族のひきこもり」、「中高年の子どもの生活を支えている」がそれぞれ8.7%となっている。

【図 困りごとの内容】

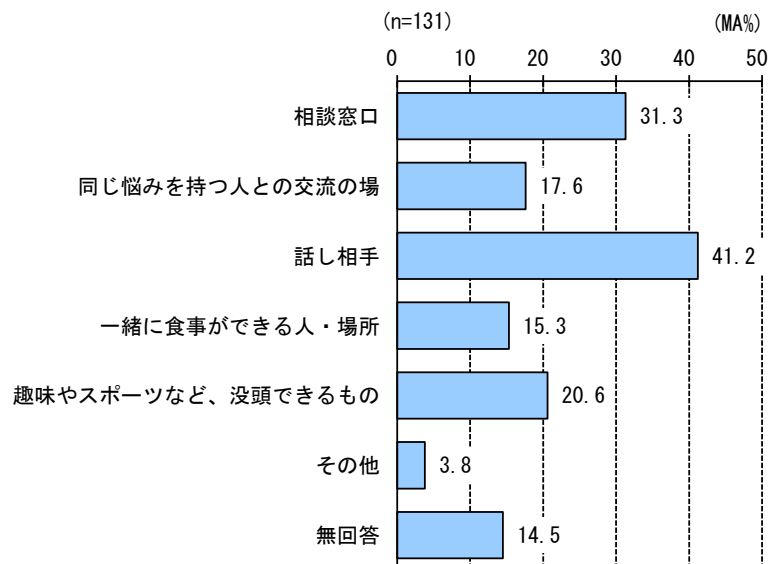


#### (4) 孤独・孤立を感じた時にあれば良いこと

問23 あなたが孤独・孤立を感じた時、どのようなことがあれば良いですか。(いくつでも○)

孤独・孤立を感じた時にあれば良いことは、「話し相手」が41.2%と最も多く、次いで、「相談窓口」が31.3%、「趣味やスポーツなど、没頭できるもの」が20.6%、「同じ悩みを持つ人との交流の場」が17.6%、「一緒に食事ができる人・場所」が15.3%となっている。

【図 孤独・孤立を感じた時にあれば良いこと】



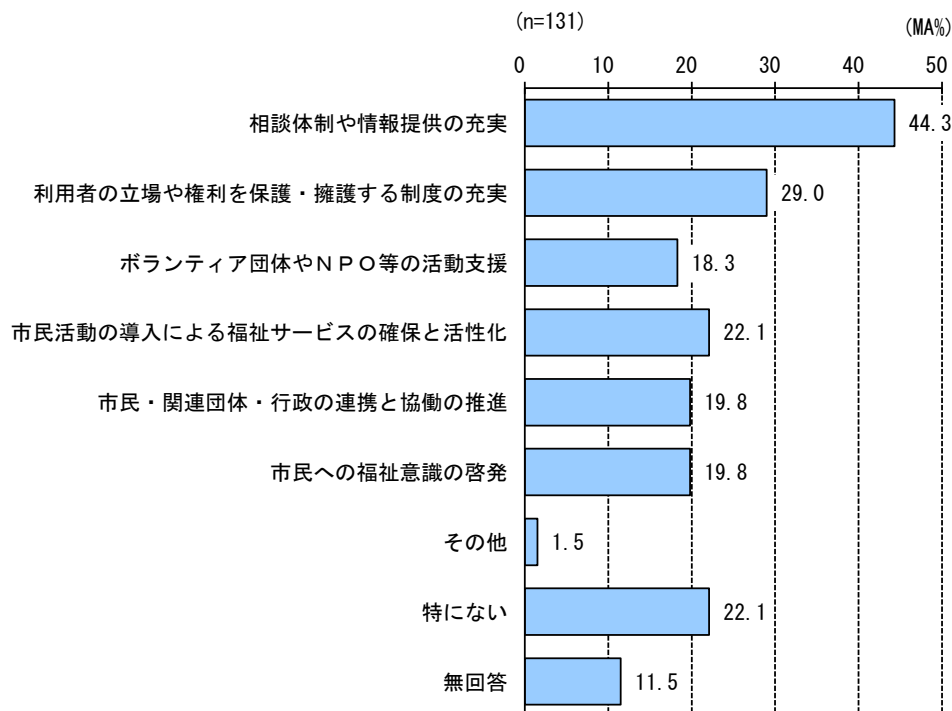
## 5. 福祉サービスについて

### (1) 福祉サービスを充実する取り組み

問24 市の福祉サービスを充実する取り組みは何だと思えますか。(いくつでも○)

福祉サービスを充実する取り組みは、「相談体制や情報提供の充実」が 44.3%と最も多く、次いで、「利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実」が 29.0%、「市民活動の導入による福祉サービスの確保と活性化」が 22.1%、「市民・関連団体・行政の連携と協働の推進」、「市民への福祉意識の啓発」がそれぞれ 19.8%、「ボランティア団体やNPO等の活動支援」が 18.3%となっている。

【図 福祉サービスを充実する取り組み】



## (2) 生活上の困りごとを抱えている世帯に対する取り組みを進めるべきだと思うか

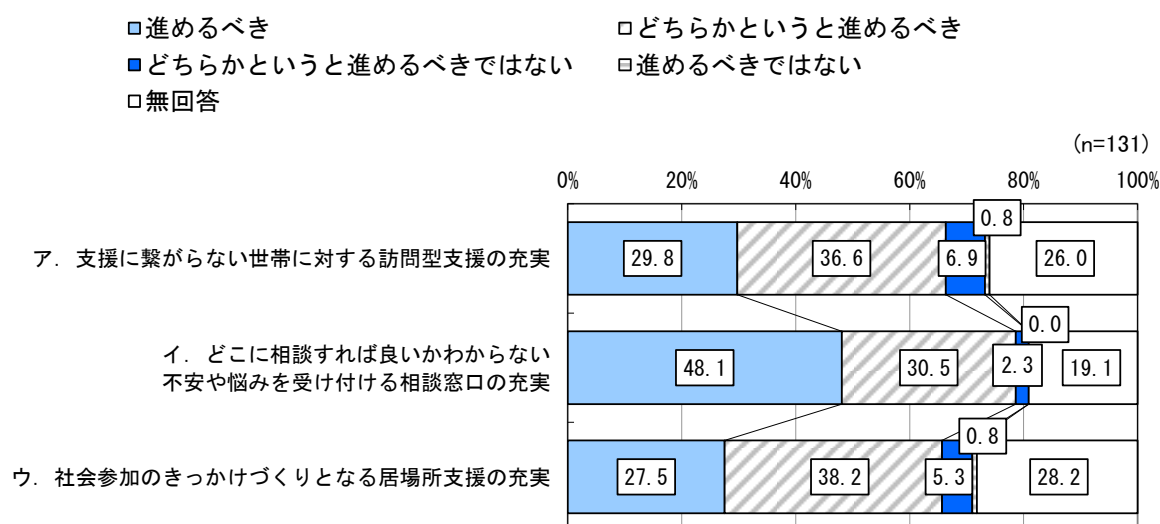
問25 どこに相談すれば良いかわからない生活上の困りごとを抱えている世帯に対し、以下の取り組みを進めるべきだと思いますか。(それぞれ1つに○)

生活上の困りごとを抱えている世帯に対する取り組みを進めるべきだと思うかは、ア．支援に繋がらない世帯に対する訪問型支援の充実では、「どちらかというに進めるべき」が36.6%と最も多く、次いで、「進めるべき」が29.8%、「どちらかというに進めるべきではない」が6.9%、「進めるべきではない」が0.8%となっている。

イ．どこに相談すれば良いかわからない不安や悩みを受け付ける相談窓口の充実では、「進めるべき」が48.1%と最も多く、次いで、「どちらかというに進めるべき」が30.5%、「どちらかというに進めるべきではない」が2.3%となっている。

ウ．社会参加のきっかけづくりとなる居場所支援の充実では、「どちらかというに進めるべき」が38.2%と最も多く、次いで、「進めるべき」が27.5%、「どちらかというに進めるべきではない」が5.3%、「進めるべきではない」が0.8%となっている。

【図 生活上の困りごとを抱えている世帯に対する取り組みを進めるべきだと思うか】



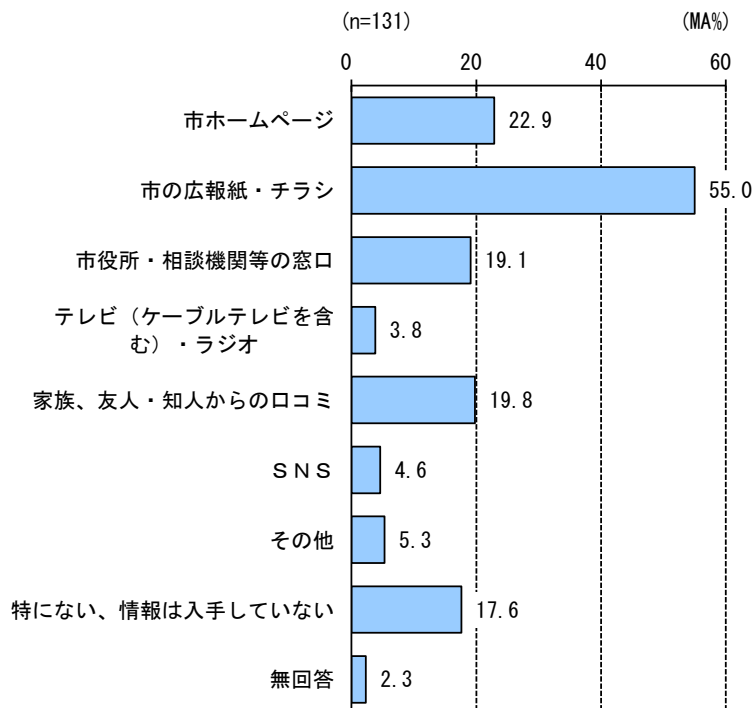
### (3) 市の福祉サービスに関する情報をどこから入手しているか

問26 市の福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(いくつでも○)

市の福祉サービスに関する情報をどこから入手しているかは、「市の広報紙・チラシ」が55.0%と最も多く、次いで、「市ホームページ」が22.9%、「家族、友人・知人からの口コミ」が19.8%、「市役所・相談機関等の窓口」が19.1%、「SNS」が4.6%となっている。

一方、「特にない、情報は入手していない」が17.6%となっている。

【図 市の福祉サービスに関する情報をどこから入手しているか】



## 6. 災害対策について

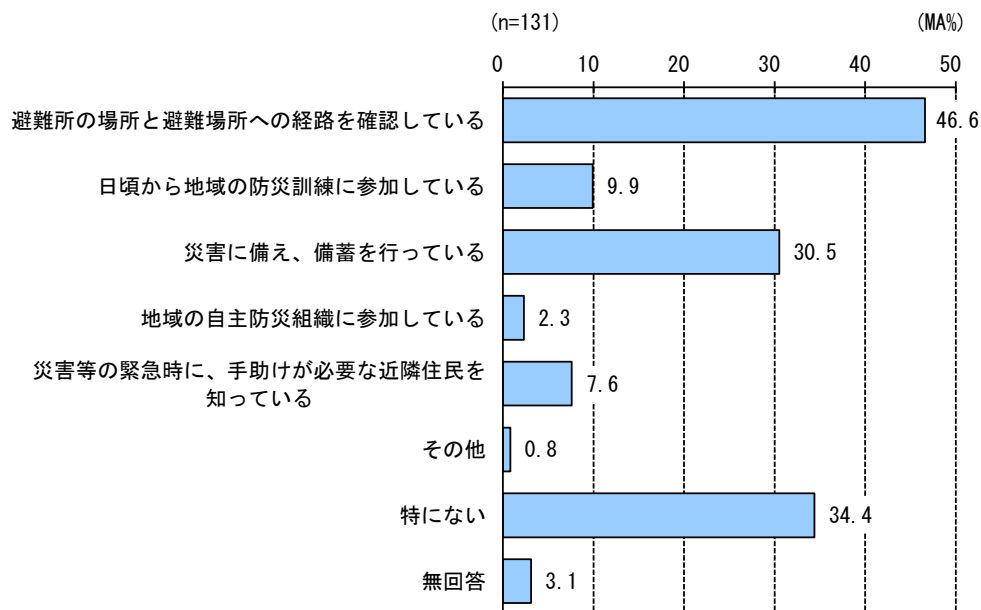
### (1) 災害発生時に備えて、どのような取り組みをしているか

問27 災害発生時に備えて、どのような取り組みをしていますか。(いくつでも○)

災害発生時に備えて、どのような取り組みをしているかは、「避難所の場所と避難場所への経路を確認している」が 46.6%と最も多く、次いで、「災害に備え、備蓄を行っている」が 30.5%、「日頃から地域の防災訓練に参加している」が 9.9%、「災害等の緊急時に、手助けが必要な近隣住民を知っている」が 7.6%、「地域の自主防災組織に参加している」が 2.3%となっている。

一方、「特にない」が 34.4%となっている。

【図 災害発生時に備えて、どのような取り組みをしているか】

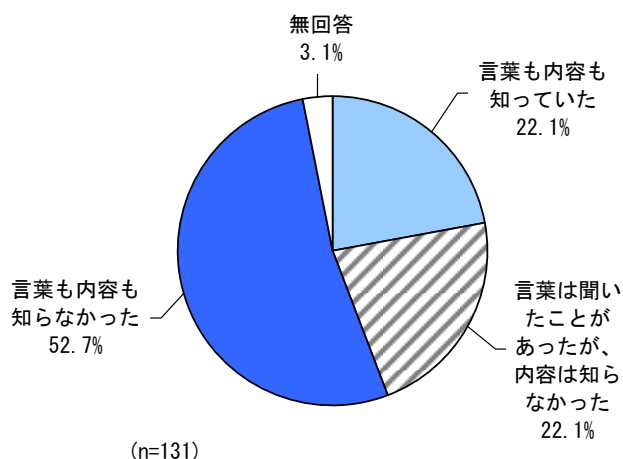


## (2) 避難行動要支援者名簿の認知状況

問28 避難行動要支援者名簿について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿の認知状況は、「言葉も内容も知らなかった」が 52.7%と最も多く、次いで、「言葉も内容も知っていた」、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」がそれぞれ 22.1%となっている。

【図 避難行動要支援者名簿の認知状況】

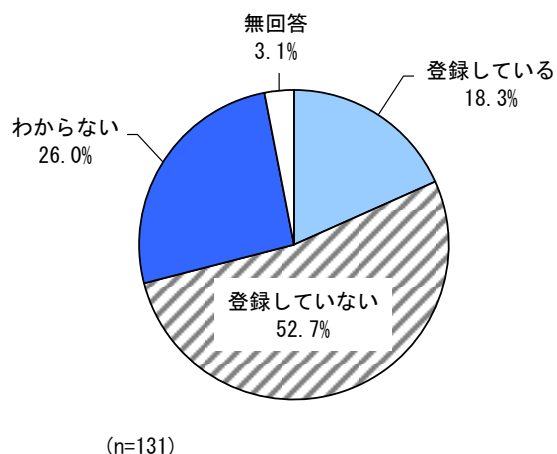


## (3) 避難行動要支援者名簿の登録状況

問29 避難行動要支援者名簿に登録していますか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿の登録状況は、「登録している」が 18.3%、「登録していない」が 52.7%となっている。

【図 避難行動要支援者名簿の登録状況】

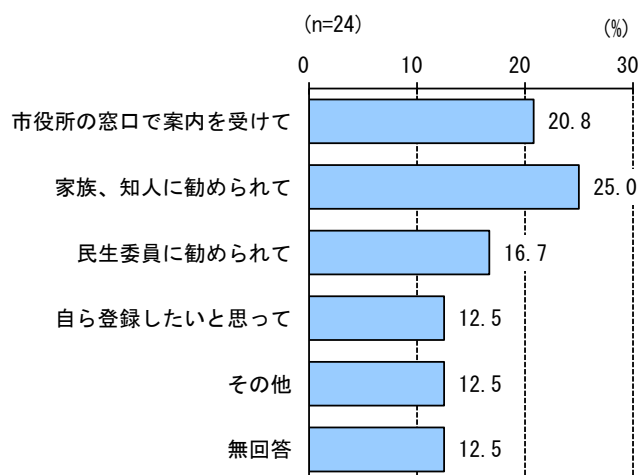


#### (4) 避難行動要支援者名簿に登録したきっかけ

問29-1 登録したきっかけは何ですか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿の登録したきっかけは、「家族、知人に勧められて」が 25.0%と最も多く、次いで、「市役所の窓口で案内を受けて」が 20.8%、「民生委員に勧められて」が 16.7%、「自ら登録したいと思って」が 12.5%となっている。

【図 避難行動要支援者名簿に登録したきっかけ】

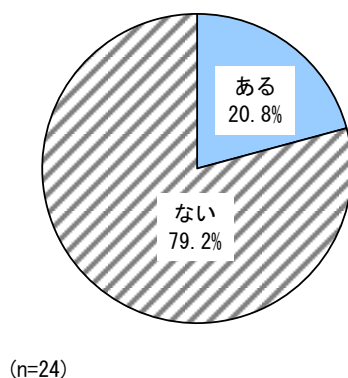


#### (5) 避難行動要支援者名簿に登録した後、日常で民生委員や自治会の方等からのコミュニケーションはあったか

問29-2 登録後、日常で民生委員や自治会の方等からのコミュニケーション（声かけ）はありましたか。(1つに○)

避難行動要支援者名簿に登録した後、日常で民生委員や自治会の方等からのコミュニケーションはあったかは、「ある」が 20.8%、「ない」が 79.2%となっている。

【図 避難行動要支援者名簿に登録した後、日常で民生委員や自治会の方等からのコミュニケーションはあったか】



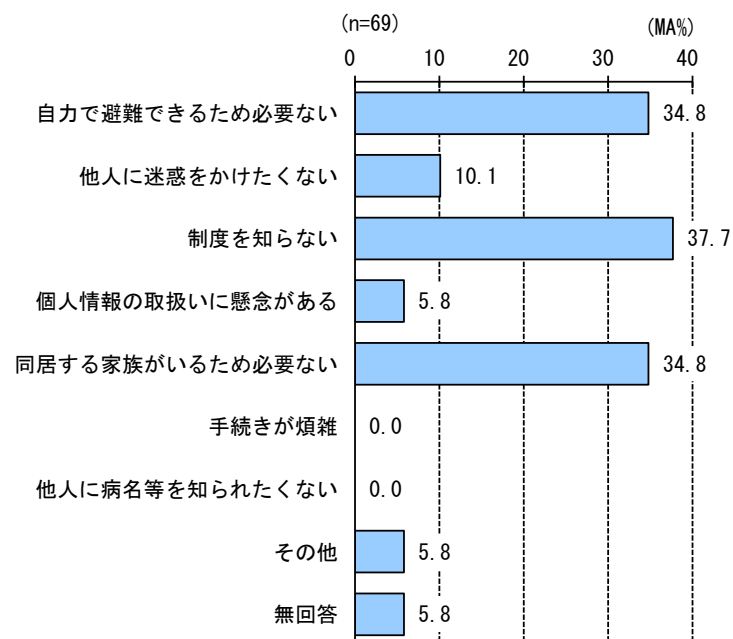
(n=24)

## (6) 避難行動要支援者名簿に登録しない理由

問30 避難行動要支援者名簿に登録しない理由は何ですか。(いくつでも○)

避難行動要支援者名簿に登録しない理由は、「制度を知らない」が37.7%と最も多く、次いで、「自力で避難できるため必要ない」、「同居する家族がいるため必要ない」がそれぞれ34.8%、「他人に迷惑をかけたくない」が10.1%、「個人情報の取扱いに懸念がある」が5.8%となっている。

【図 避難行動要支援者名簿に登録しない理由】

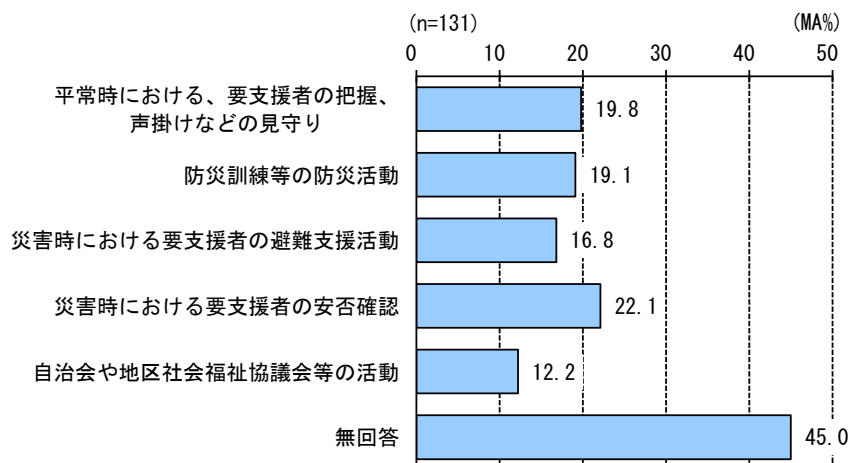


## (7) 災害時の要支援者の避難支援の他、名簿の活用範囲で知っていること

問31 災害時の要支援者の避難支援の他、名簿の活用範囲で知っていることは何ですか。  
(いくつでも○)

災害時の要支援者の避難支援の他、名簿の活用範囲で知っていることは、「災害時における要支援者の安否確認」が 22.1%と最も多く、次いで、「平常時における、要支援者の把握、声掛けなどの見守り」が 19.8%、「防災訓練等の防災活動」が 19.1%、「災害時における要支援者の避難支援活動」が 16.8%、「自治会や地区社会福祉協議会等の活動」が 12.2%となっている。

【図 災害時の要支援者の避難支援の他、名簿の活用範囲で知っていること】

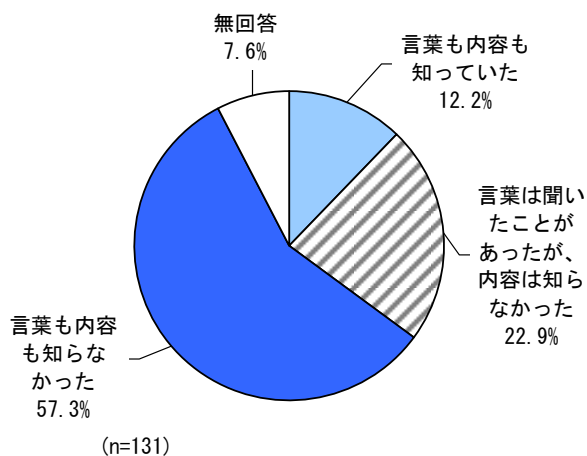


## (8) 個別避難計画の認知状況

問32 個別避難計画について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

個別避難計画の認知状況は、「言葉も内容も知らなかった」が 57.3%と最も多く、次いで、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が 22.9%、「言葉も内容も知っていた」が 12.2%となっている。

【図 個別避難計画の認知状況】

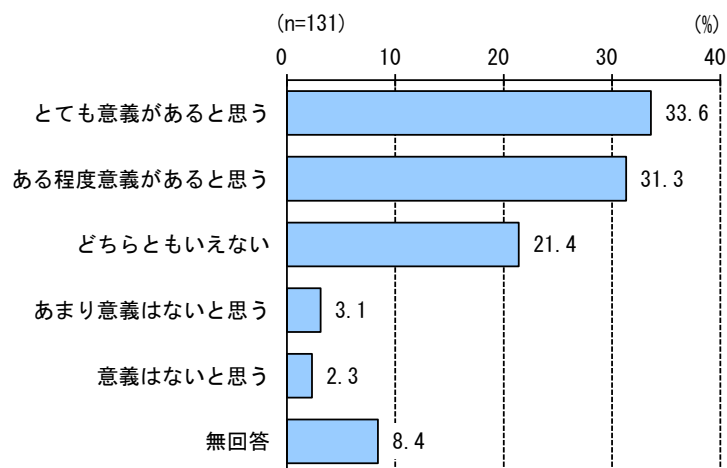


(9) 災害に備え、個別避難計画を作成することについてどのように考えるか

問33 災害に備え、個別避難計画を作成することについて、どのように考えますか。(1つに○)

災害に備え、個別避難計画を作成することについてどのように考えるかは、「とても意義があると思う」が33.6%と最も多く、次いで、「ある程度意義があると思う」が31.3%、「どちらともいえない」が21.4%、「あまり意義はないと思う」が3.1%、「意義はないと思う」が2.3%となっている。

【図 災害に備え、個別避難計画を作成することについてどのように考えるか】



(10) 個別避難計画を作成することについての考え (自由記述)

問34 上記のように考える理由をご記入ください。(自由記述)

| 個別避難計画を作成することについての考え(自由記述)                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経路地図を書きましたが歩行困難であり実際には役立つとは思えません。                                                                              |
| 特に考えたことがないから。                                                                                                  |
| 要支援者には、それぞれの身体の様子が1人1人違う為、皆と同じ避難路を使えるとは限らない。よって自分に見合った避難路を日頃から決めておく事が良いから。                                     |
| お互に助け合い。                                                                                                       |
| 自分の事で精いっぱい。                                                                                                    |
| 良い事だから。                                                                                                        |
| となり近所との付き合いが、自分の案心に通じるから・・・。                                                                                   |
| 個別避難計画を知らなかった。                                                                                                 |
| 内容が良く理解できないので、知らせて欲しい。地域の根っこが伝わらず、上ずみ都合で滑っているのではないかとどうやって市民の各層に知らせるかを考えたら？このアンケートは立派だけど、施策の周知方法は良くないと80才老人は思う。 |
| それによって安心を感じられることができたと思ったため。                                                                                    |
| 災害の様子や内容がはっきりとわからない時があるので、個別的には難しいと思いました。                                                                      |
| 災害の種類によって対応が異なるので、計画通りにいくとは思われない！                                                                              |

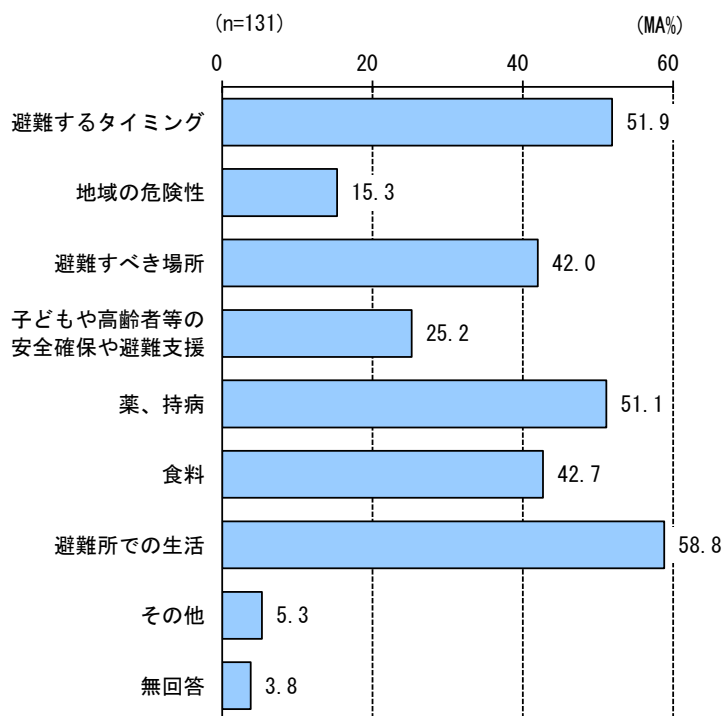
| 個別避難計画を作成することについての考え(自由記述)                                              |
|-------------------------------------------------------------------------|
| 1人では行動できないため。                                                           |
| 今私は和光市福祉センターに入居中(家族が代理で記入)。                                             |
| 1人暮らしになった時、体が不自由になった時(動けなくなった時)など個別避難行動の計画はとても大切なことだと思う。                |
| 安全かつ安心して避難できることが不可欠と思う。                                                 |
| 災害の程度によると思います。何が起こるかわからないので。想定が難しいと感じています。                              |
| マンションのような所では個別の避難にヌケが出る可能性があるのでこのような計画は必要と考える。                          |
| ハザードマップによれば現在私の住んでいる地区は安全であるが、避難指示によって非難する人にとっては必要である。                  |
| 安心できる。                                                                  |
| 現実に自分の事が精一杯でその余裕があるのかどうか。                                               |
| 様々な理由で避難所で生活が出来ない人がある。災害時に援助要請が出来ないだろう困っている人の抽出する為。そしてその援助方法を前もって把握する為。 |
| 弱者支援に反対する理由が無いから                                                        |

## (11) 災害が直面した時に心配になること

問35 災害が直面した時に心配になることは何ですか。(いくつでも○)

災害が直面した時に心配になることは、「避難所での生活」が 58.8%と最も多く、次いで、「避難するタイミング」が 51.9%、「薬、持病」が 51.1%、「食料」が 42.7%、「避難すべき場所」が 42.0%となっている。

【図 災害が直面した時に心配になること】

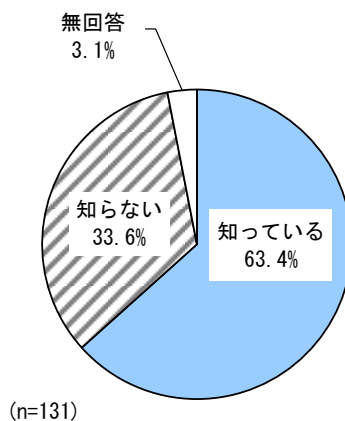


## (12) 地域の避難場所の認知状況

問36 災害等が起こった際、地域の避難場所を知っていますか。(1つに○)

地域の避難場所の認知状況は、「知っている」が 63.4%、「知らない」が 33.6%となっている。

【図 地域の避難場所の認知状況】

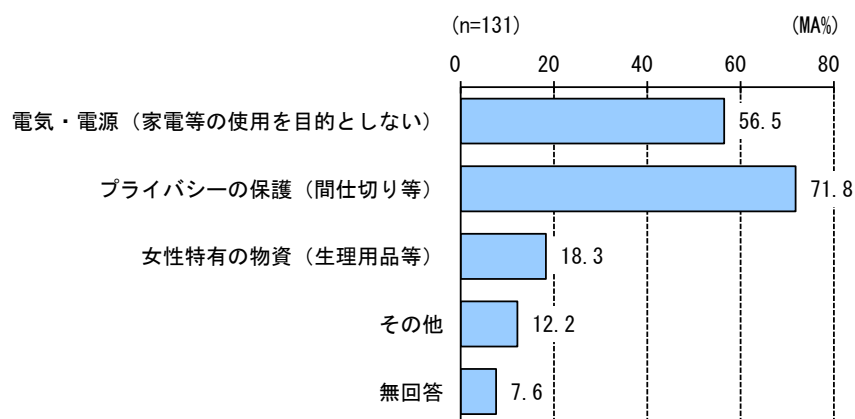


### (13) 避難場所の設備や物資として望むもの

問37 避難場所の設備や物資として望むものはありますか。(いくつでも○)

避難場所の設備や物資として望むものは、「プライバシーの保護（間仕切り等）」が 71.8%と最も多く、次いで、「電気・電源（家電等の使用を目的としない）」が 56.5%、「女性特有の物資（生理用品等）」が 18.3%となっている。

【図 避難場所の設備や物資として望むもの】

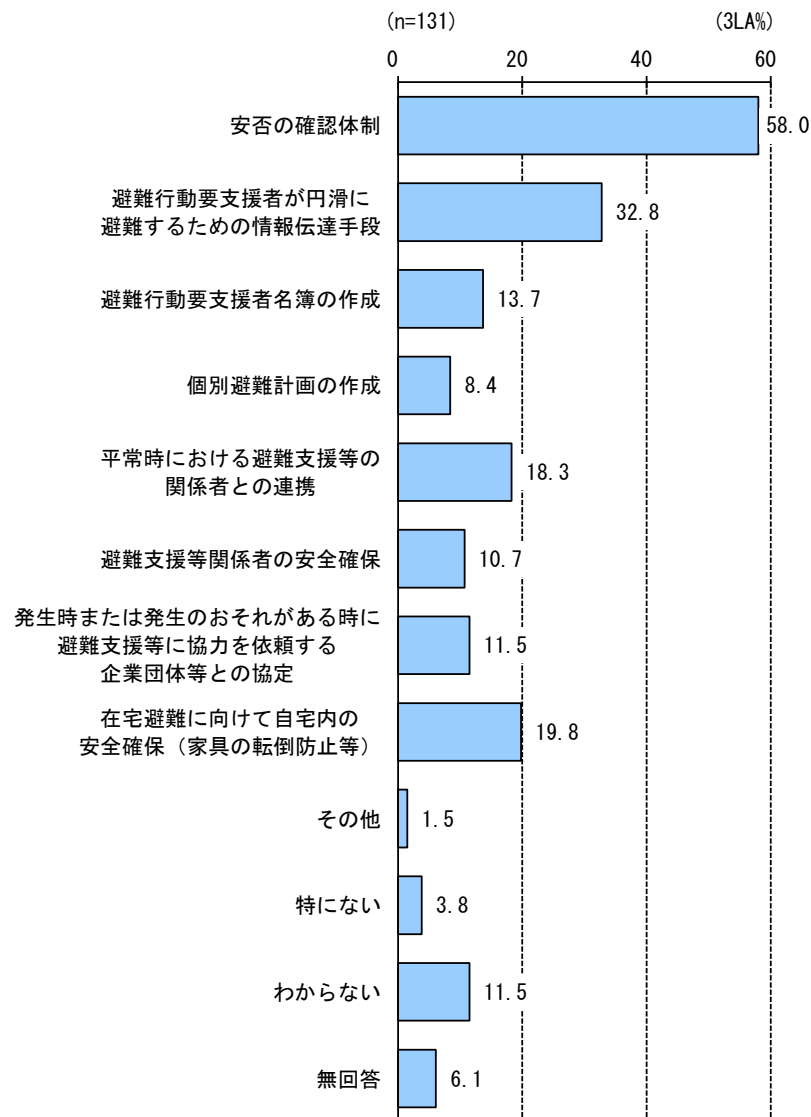


#### (14) 避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うもの

問38 災害発生時に備えた避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うものは何ですか。  
(3つまで○)

避難場所の設備や物資として望むものは、「安否の確認体制」が 58.0%と最も多く、次いで、「避難行動要支援者が円滑に避難するための情報伝達手段」が 32.8%、「在宅避難に向けて自宅内の安全確保（家具の転倒防止等）」が 19.8%、「平常時における避難支援等の関係者との連携」が 18.3%、「避難行動要支援者名簿の作成」が 13.7%となっている。

【図 避難行動要支援者対策について、特に重要だと思うもの】

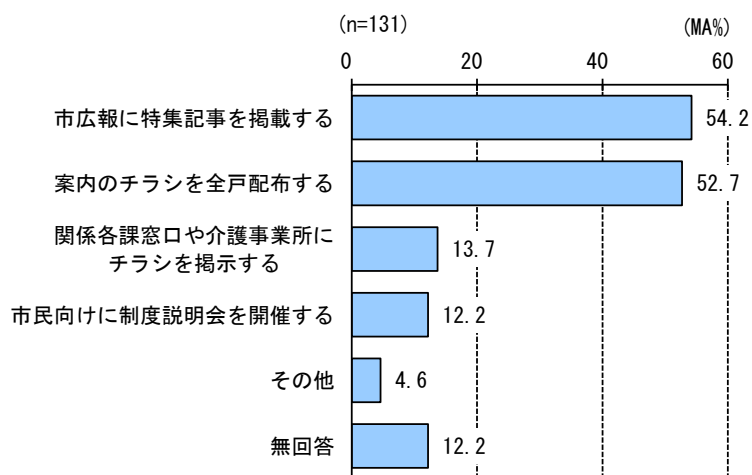


(15) 避難行動要支援者対策をより広く周知するためにどうしたらよいと思うか

問39 避難行動要支援者対策をより広く周知するためにはどうしたらよいと思いますか。  
(いくつでも○)

避難行動要支援者対策をより広く周知するためにどうしたらよいと思うかは、「市広報に特集記事を掲載する」が54.2%と最も多く、次いで、「案内のチラシを全戸配布する」が52.7%、「関係各課窓口や介護事業所にチラシを掲示する」が13.7%、「市民向けに制度説明会を開催する」が12.2%となっている。

【図 避難行動要支援者対策をより広く周知するためにどうしたらよいと思うか】



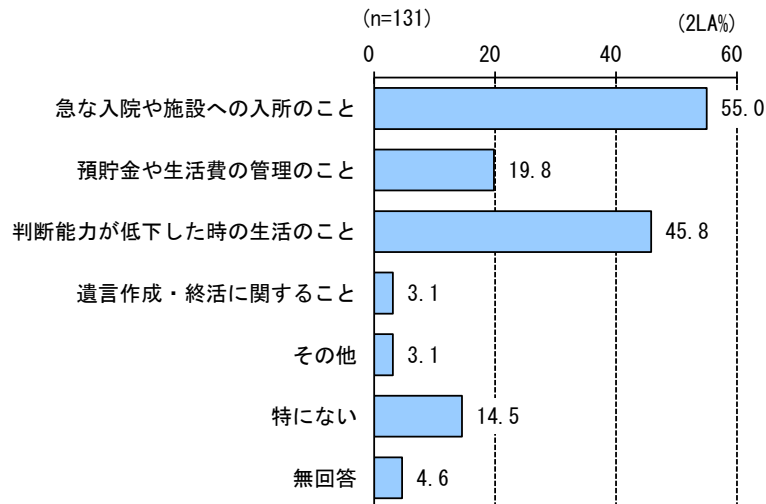
## 7. 権利擁護支援について

### (1) 将来の備えとして不安を感じる事

問40 あなたは将来の備えとしてどのようなことに不安を感じますか。(2つまで○)

将来の備えとして不安を感じることは、「急な入院や施設への入所のこと」が 55.0%と最も多く、次いで、「判断能力が低下した時の生活のこと」が 45.8%、「預貯金や生活費の管理のこと」が 19.8%、「遺言作成・終活に関すること」が 3.1%となっている。

【図 将来の備えとして不安を感じる事】

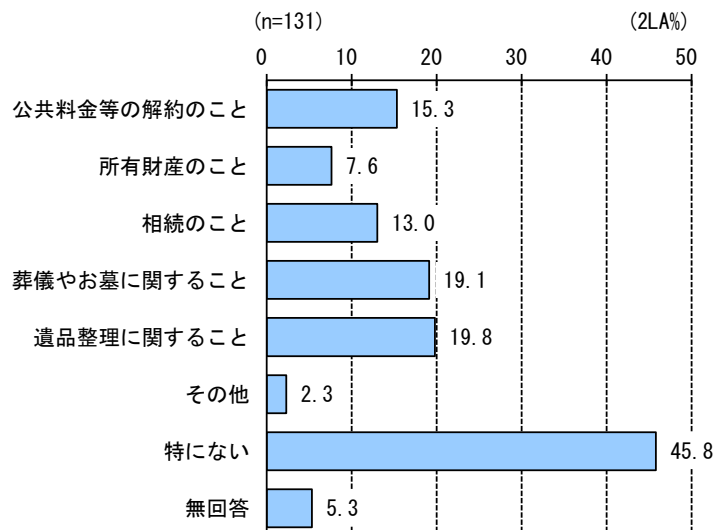


### (2) 自身が亡くなった後のことで不安なこと

問41 あなたは自身が亡くなった後のことで不安なことはありますか。(2つまで○)

自身が亡くなった後のことで不安なことは、「遺品整理に関すること」が 19.8%と最も多く、次いで、「葬儀やお墓に関すること」が 19.1%、「公共料金等の解約のこと」が 15.3%、「相続のこと」が 13.0%、「所有財産のこと」が 7.6%となっている。

【図 自身が亡くなった後のことで不安なこと】



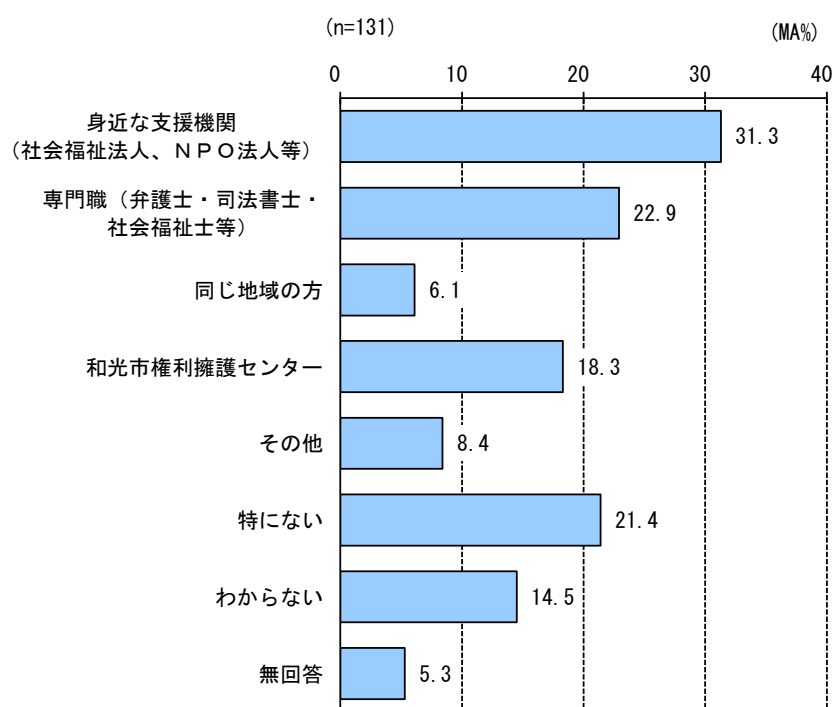
### (3) 将来の備え、亡くなった後のことを家族以外で誰に相談したいか

問42 問40、問41について、必要になった時、家族以外で誰に相談したいですか。(いくつでも○)

将来の備え、亡くなった後のことを家族以外で誰に相談したいかは、「身近な支援機関（社会福祉法人、NPO法人等）」が 31.3%と最も多く、次いで、「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士等）」が 22.9%、「和光市権利擁護センター」が 18.3%、「同じ地域の方」が 6.1%となっている。

一方、「特にない」が 21.4%、「わからない」が 14.5%となっている。

【図 将来の備え、なくなった後のことを家族以外で誰に相談したいか】

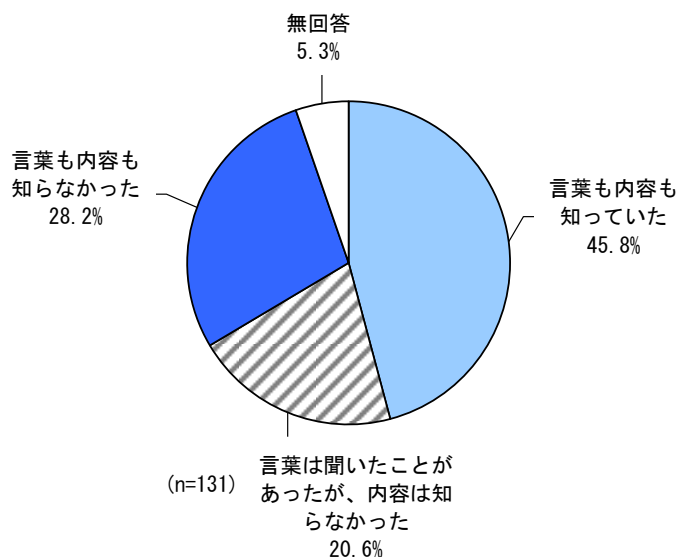


#### (4) 成年後見制度の認知状況

問43 成年後見制度について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

成年後見制度の認知状況は、「言葉も内容も知っていた」が 45.8%と最も多く、次いで、「言葉も内容も知らなかった」が 28.2%、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が 20.6%となっている。

【図 成年後見制度の認知状況】

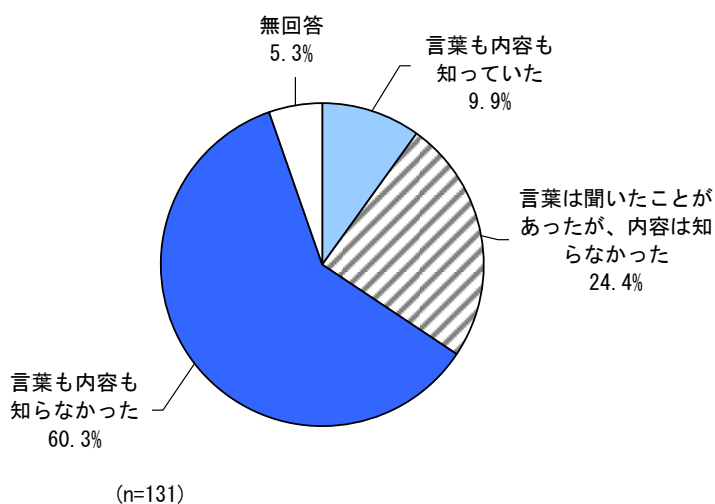


#### (5) あんしんサポートねっとの認知状況

問44 判断能力の不十分な方などが、地域で安心して生活が送れるように支援をするあんしんサポートねっについて、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。(1つに○)

あんしんサポートねっの認知状況は、「言葉も内容も知らなかった」が 60.3%と最も多く、次いで、「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」が 24.4%、「言葉も内容も知っていた」が 9.9%となっている。

【図 あんしんサポートねっの認知状況】

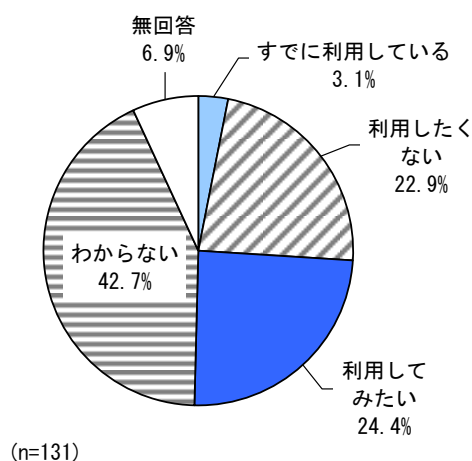


## （６）成年後見制度の利用希望

問45 あなたや家族が認知症等により判断が十分にできなくなった場合、成年後見制度を利用したいと  
 思いますか。（１つに○）

成年後見制度の利用希望は、「わからない」が42.7%と最も多く、「利用してみたい」が24.4%、  
 「利用したくない」が22.9%、「すでに利用している」が3.1%となっている。

【図 成年後見制度の利用希望】

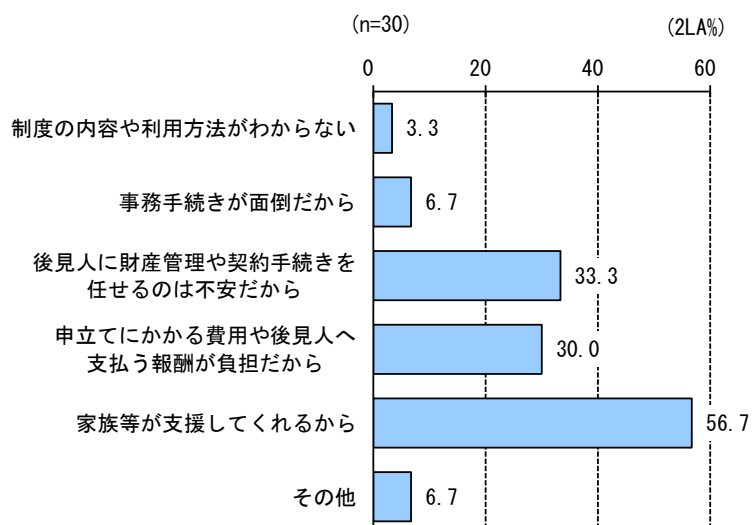


## （７）成年後見制度を利用したくない理由

問45－１ 利用したくない理由は何ですか。（２つまで○）

成年後見制度を利用したくない理由は、「家族等が支援してくれるから」が56.7%と最も多く、  
 次いで、「後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」が33.3%、「申立てにかかる  
 費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」が30.0%、「事務手続きが面倒だから」が6.7%、「制  
 度の内容や利用方法がわからない」が3.3%となっている。

【図 成年後見制度を利用したくない理由】



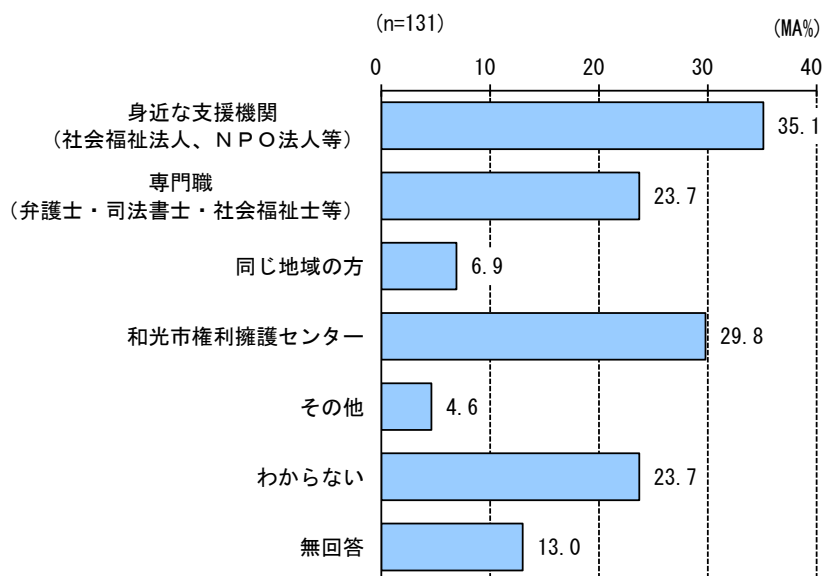
## （８）身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいか

問46 あなた自身の判断能力が低下して、身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいですか。（いくつでも○）

身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいかは、「身近な支援機関（社会福祉法人、NPO法人等）」が35.1%と最も多く、次いで、「和光市権利擁護センター」が29.8%、「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士等）」が23.7%、「同じ地域の方」が6.9%となっている。

一方、「わからない」が23.7%となっている。

【図 身近に支援できる親族等がない場合、誰に支援してほしいか】

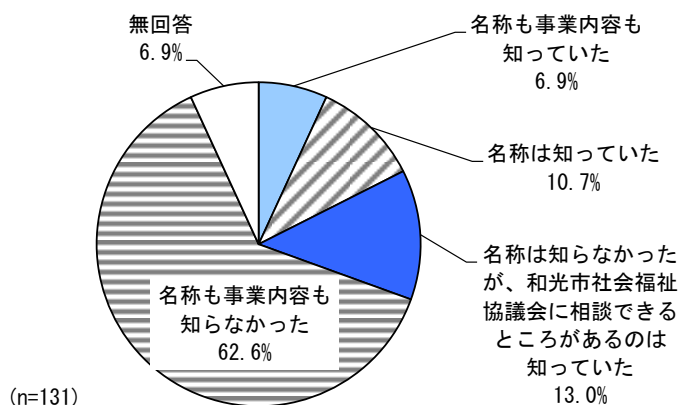


## （９）和光市権利擁護センターの認知状況

問47 和光市権利擁護センターについて、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。（１つに○）

和光市権利擁護センターの認知状況は、「名称も事業内容も知らなかった」が62.6%と最も多く、次いで、「名称は知らなかったが、和光市社会福祉協議会に相談できるところがあるのは知っていた」が13.0%、「名称は知っていた」が10.7%、「名称も事業内容も知っていた」が6.9%となっている。

【図 和光市権利擁護センターの認知状況】



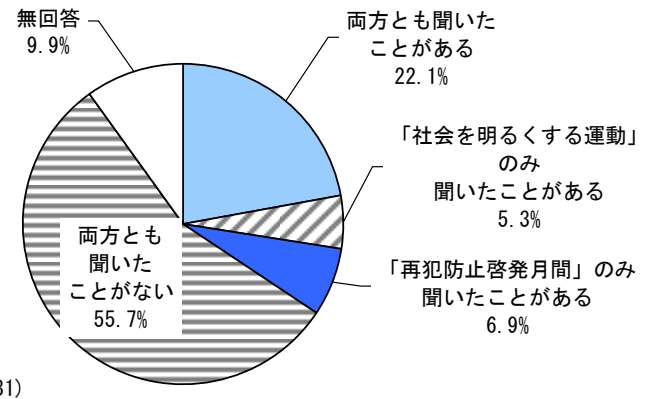
## 8. 更生を支援するまちづくりについて（再犯防止について）

### （１）「社会を明るくする運動」、「再犯防止啓発月間」の認知状況

問48 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、力を合わせて、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。（１つに○）

【図 「社会を明るくする運動」、  
「再犯防止啓発月間」の認知状況】

「社会を明るくする運動」、「再犯防止啓発月間」の認知状況は、「両方とも聞いたことがない」が 55.7%と最も多く、次いで、「両方とも聞いたことがある」が 22.1%、「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある」が 6.9%、「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある」が 5.3%となっている。

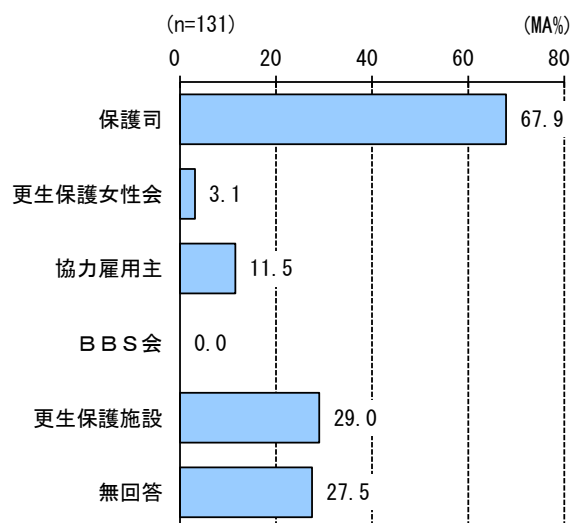


### （２）犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者の認知状況

問49 あなたは、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。（いくつでも○）

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者の認知状況は、「保護司」が 67.9%と最も多く、次いで、「更生保護施設」が 29.0%、「協力雇用主」が 11.5%、「更生保護女性会」が 3.1%となっている。

【図 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、協力する民間協力者の認知状況】

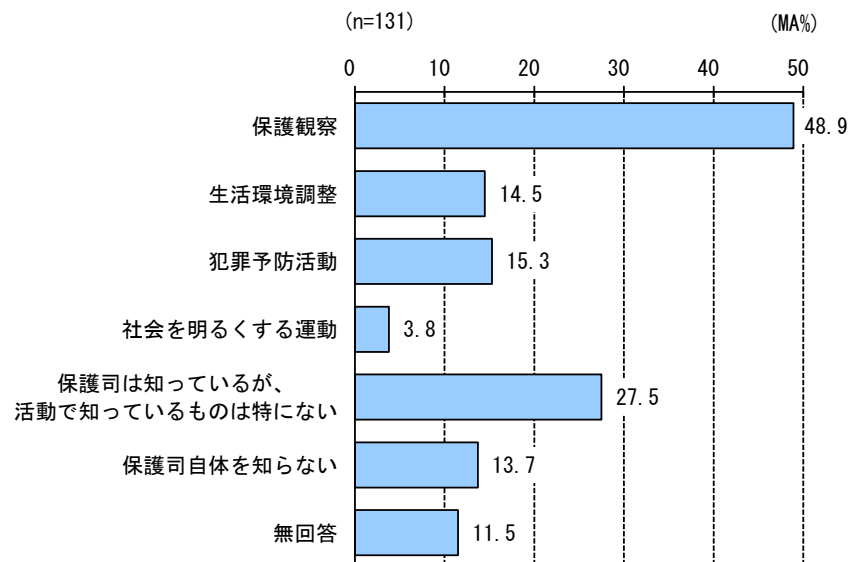


### (3) 保護司の活動の認知状況

問50 保護司の活動のうち、知っているものはありますか。(いくつでも○)

保護司の活動の認知状況は、「保護観察」が48.9%と最も多く、次いで、「保護司は知っているが、活動で知っているものは特にない」が27.5%、「犯罪予防活動」が15.3%、「生活環境調整」が14.5%、「保護司自体を知らない」が13.7%となっている。

【図 保護司の活動の認知状況】



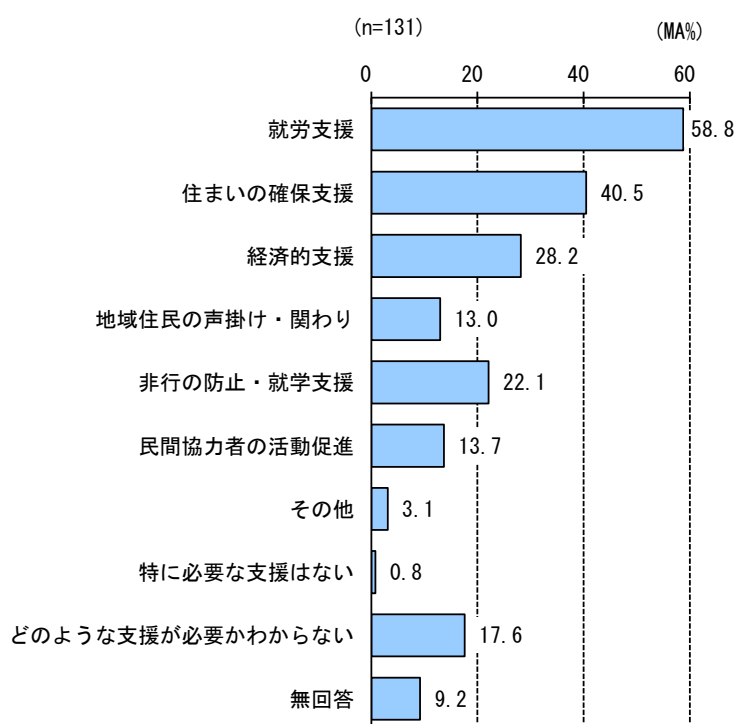
(4) 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要だと思う支援

問51 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要な支援は何だと思いますか。(いくつでも○)

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要だと思う支援は、「就労支援」が 58.8%と最も多く、次いで、「住まいの確保支援」が 40.5%、「経済的支援」が 28.2%、「非行の防止・就学支援」が 22.1%、「民間協力者の活動促進」が 13.7%となっている。

一方、「どのような支援が必要かわからない」が 17.6%となっている。

【図 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために特に重要だと思う支援】



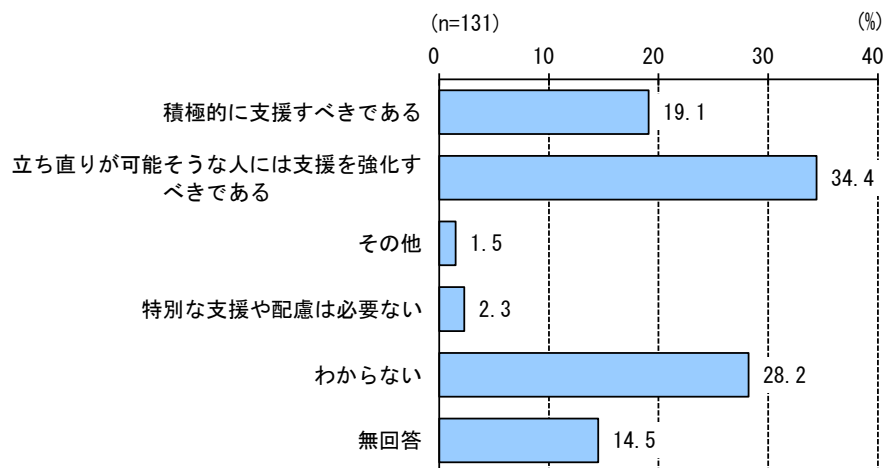
(5) 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考え

問52 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについて、あなたの考えに近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考えは、「立ち直りが可能そうな人には支援を強化すべきである」が 34.4%と最も多く、次いで、「積極的に支援すべきである」が 19.1%となっている。

一方、「わからない」が 28.2%となっている。

【図 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考え】



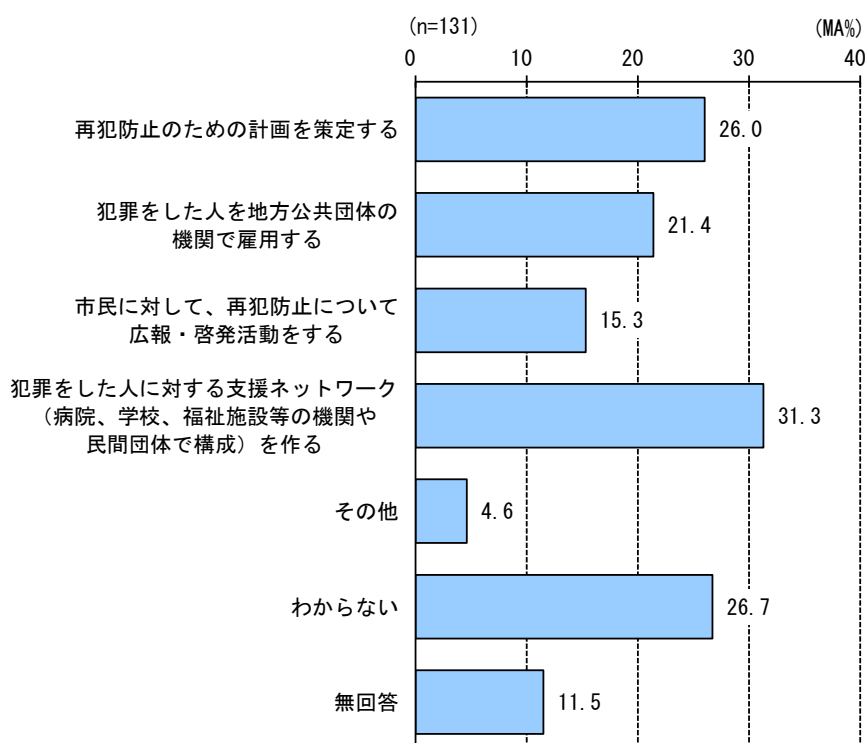
## （６）再犯防止のために行政が取り組むべきもの

問53 再犯防止のために行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。（いくつでも○）

再犯防止のために行政が取り組むべきものは、「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設等の機関や民間団体で構成）を作る」が 31.3%と最も多く、次いで、「再犯防止のための計画を策定する」が 26.0%、「犯罪をした人を地方公共団体の機関で雇用する」が 21.4%、「市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする」が 15.3%となっている。

一方、「わからない」が 26.7%となっている。

【図 再犯防止のために行政が取り組むべきもの】



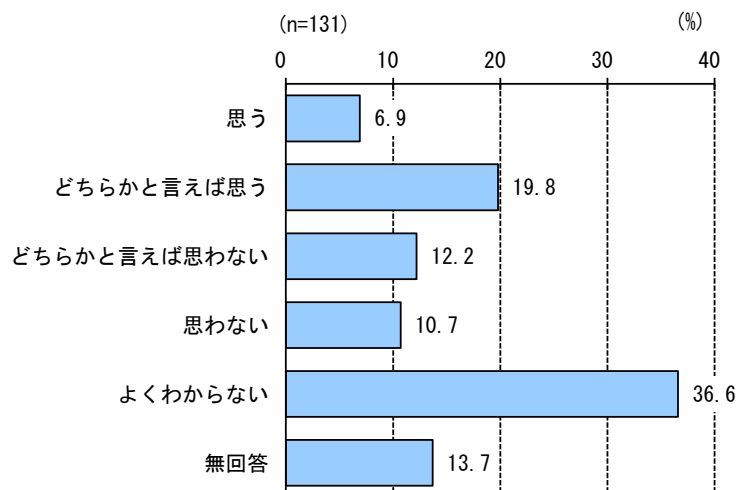
## (7) 犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うか

問54 あなたは犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。(1つに○)

犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うかは、「よくわからない」が36.6%と最も多く、次いで、「どちらかと言えば思う」が19.8%、「どちらかと言えば思わない」が12.2%、「思わない」が10.7%、「思う」が6.9%となっている。

一方、「よくわからない」が36.6%となっている。

【図 犯罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うか】



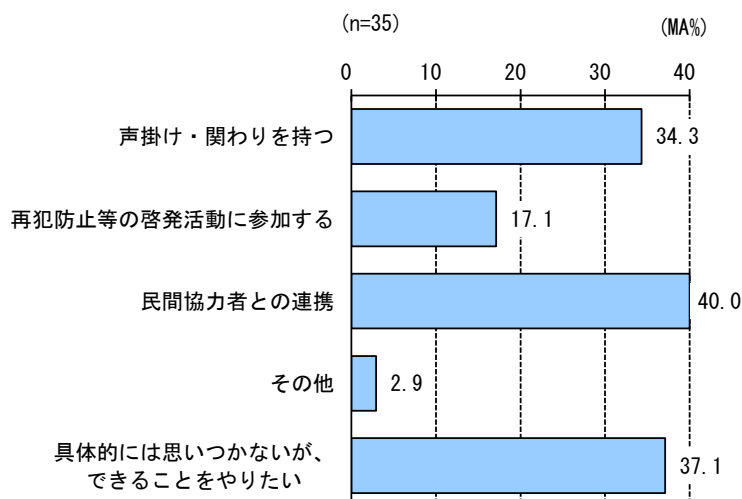
## (8) どのような協力をしたいと思うか

問54-1 どのような協力をしたいと思いますか。(いくつでも○)

どのような協力をしたいと思うかは、「民間協力者との連携」が40.0%と最も多く、次いで、「声掛け・関わりを持つ」が34.3%、「再犯防止等の啓発活動に参加する」が17.1%となっている。

一方、「具体的には思いつかないが、できることをやりたい」が37.1%となっている。

【図 どのような協力をしたいと思うか】

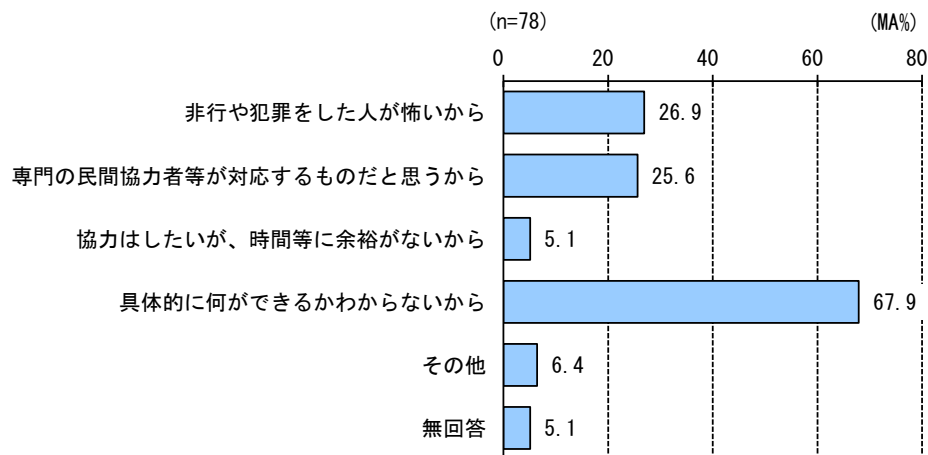


## (9) 協力をしたいと思わない理由

問54ー2 どのような理由からそのように思いますか。(いくつでも○)

協力をしたいと思わない理由は、「具体的に何ができるかわからないから」が 67.9%と最も多く、次いで、「非行や犯罪をした人が怖いから」が 26.9%、「専門の民間協力者等が対応するものだと思うから」が 25.6%、「協力はしたいが、時間等に余裕がないから」が 5.1%となっている。

【図 協力をしたいと思わない理由】



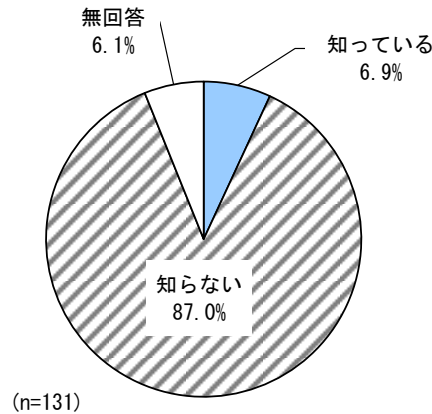
## 9. 困難な問題を抱える女性支援制度について

### (1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたことの認知状況

問55 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が令和6年4月1日より施行されたことはご存知ですか。(1つに○)

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたことの認知状況は、「知っている」が6.9%、「知らない」が87.0%となっている。

【図 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたことの認知状況】

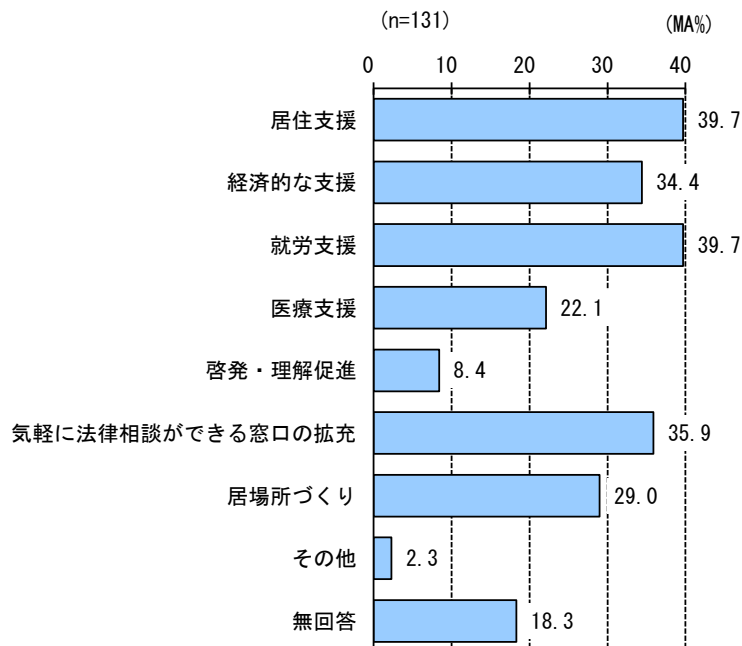


### (2) 困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきもの

問56 困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。(いくつでも○)

困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきものは、「居住支援」、「就労支援」がそれぞれ39.7%と最も多く、次いで、「気軽に法律相談ができる窓口の拡充」が35.9%、「経済的な支援」が34.4%、「居場所づくり」が29.0%、「医療支援」が22.1%となっている。

【図 困難な問題を抱える女性支援のために行政が取り組むべきもの】

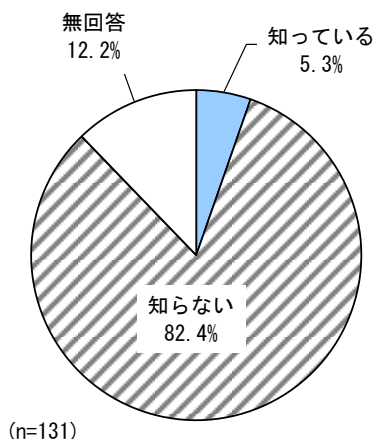


### (3) 市役所内の相談先の認知状況

問57 市役所内の相談先を知っていますか。(1つに○)

市役所内の相談先の認知状況は、「知っている」が 5.3%、「知らない」が 82.4%となっている。

【図 市役所内の相談先の認知状況】



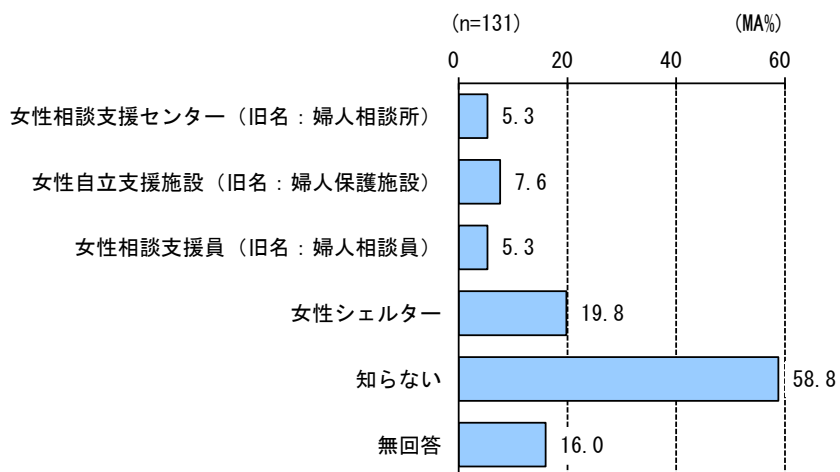
### (4) 困難な問題を抱える女性支援の内容の認知状況

問58 困難な問題を抱える女性支援の内容について知っているものはありますか。(いくつでも○)

困難な問題を抱える女性支援の内容の認知状況は、「知らない」が 58.8%となっている。

知っているものでは、「女性シェルター」が 19.8%と最も多く、次いで、「女性自立支援施設 (旧名：婦人保護施設)」が 7.6%、「女性相談支援センター (旧名：婦人相談所)」、「女性相談支援員 (旧名：婦人相談員)」がそれぞれ 5.3%となっている。

【図 困難な問題を抱える女性支援の内容の認知状況】



## 10. 自由意見

| 自由記載                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 近頃白昼での強盗とか、昔では考えられない事が多い昨今です。老人の身で足が不自由ですので災害はとても恐いです。子供達は同県内ですが離れていますのでご近所の方に助けて生活しております。もう世の中のお役に立てず、お世話になっている身ですので、平和な日々が和光市の方と過ごせる事を祈っております。                                                                                                                                                                                                              |
| 私自身脳梗塞、股関節手術、乳癌手術を経験し、他の方を気遣う余裕はございませんが、マンション居住の為に近くの方々との会話は積極的に行うようにしています。「要支援の非該当」とのこと、幸い主人が元気でいてくれますので何とか生活を続けています。歩行器利用の「非該当身障者」で日常生活はとても不便ですが、「和光市の掟」のようですから。                                                                                                                                                                                            |
| ポジティブに行こうぜ！                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 西大和団地は広く大きく多数のため、住民個人は市の施策はよほど関心がないと伝わらない。個人のレベルまで施策を徹底することは努力が必要だが、各号棟ごとのまとまりがなく、外人を抱えていることから、今後ますますむずかしくなると思う。良い種をまくことも大事だが、まいた種を根付くように成長するようにする施策が今後も大切と思う。Z世代が大きく動かないとダメと思う。兵庫県知事選挙を見てそう思うこのごろです。                                                                                                                                                         |
| 普段から顔見知りになることが支援の第一歩と思う。知らない人に手を差し伸べることはできない。顔見知りになるための手だてを考えてほしい。                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| やはり女性進出うんぬんよりも個人の生活を高め、収入、もしくは財産があるのであればそれを有意義に使い、あまり高低差のある社会を望まなければよいと感じておりました。上の女性は働くか子供を持たなければなりませんと言われてますが、私も勝手に子どもを持たされている女性の一人です。この部分が少し■なのでありますが、うまい方向に話が進むことを望んでいます。                                                                                                                                                                                  |
| 私自身、子供が産まれる前、夫婦で保護司をしていたことがございます。高校生くらいの男の子です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 90歳の老人ですので記入が大変でした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 今障害者の方々が入所する施設、グループホームが不足していると思います。親亡き後の生活支援、身の回りの世話、相談等、和光市は特にグループホーム（GH）が少なく、役所も非協力的だと思います。以前 GH を建てたいので土地や建物の相談に行ったが、話もろくに聞かずに窓口で追い返されたという話を聞きました。入所させたい親はたくさんいると思いますが、施設がないので家で世話をしていると思うので、GH を建てたいと声を上げた事業所と法人がいるなら相談に乗り、作ってほしいと思います。親が声を上げないのは、和光市は言っても無理と思っている人がほとんどで、他市には何か所もできているので、なぜ和光には作らないのか、作れないのか。利用したい人はたくさんいると思うので、ぜひ和光市に GH、入所施設をつくってください。 |
| 今は、老老介護が増えていて、子どもがいない家族も多くなっている、地域の方の声かけや包括の方の見守りが大切になると思います。和光市には親などを預ける施設が少ないと思います。デイサービスはありますが。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 96歳の高齢のため、走行が困難のため外出が難しい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| これほどたくさん地域の福祉、行政の窓口があるとは思いませんでした。知らないことがたくさん（いっぱい）です。これからは年だから覚えても忘れてしまいがちなのですが、少しずつ1つずつ勉強し、脳と体と目に働きかけながら頑張っていきたいと思います。和光市の広報“わこう”は毎月ポストに入っておりますのでありがたいと思います。                                                                                                                                                                                                 |
| 障害者ですが、市内循環バスが無料でとても助かります。外出しやすいです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 今回は施設入所中の息子に代わり回答させていただきました。アンケートを通じて福祉を、知る事が出来ました。ありがとうございました。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 令和6年4月から、女性支援制度が出来るのは、嬉しいことです。借金苦で、年金だけではやっていけない状況です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 障害者への支援をもっとしていただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 現在の障害者生活が始まって4年が経とうとしていますが、最初は「和光市社会福祉協議会」、「和光市 南地域生活支援センター」の相談員さんがしばらく訪問してくれたり、相談に乗ってくれたりしていました。しかし2年程前と記憶していますが、留守番電話にセンターを退社することでご挨拶いただきました。その際に「後任の者から後日連絡をさせていただきます」とおっしゃっていましたが未だその後任の方から連絡をいただいておりません。以降何もわからないですし、こんなときはどうすれば良いのか、どちらに相談等をすれば良いのか一切わからない状態で日々生活している状況です。取り急ぎこの件だけでも解決できれば幸いです。                                                        |

| 自由記載                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 障害者専用の施設がほしい。もしくは、障害者が利用できる時間帯を設けてほしい。今の段階で気軽に利用できる施設がありません。子供が参加できる障害者スポーツが市内で参加できると有難い。市内の全ての公立小中学校(特に小学校)に通う健常者の人に向けて、障害者への理解向上の為の授業をして欲しい(障害に対して早い段階での理解が、障害者や障害者家族にとって助けとなる)。 |